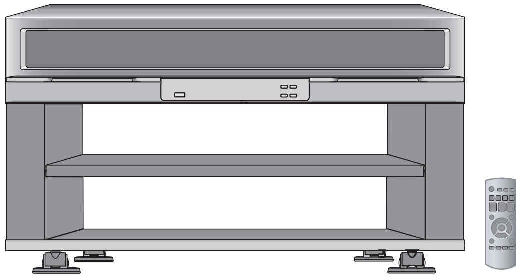
Panasonic®



取扱説明書

ホームシアターオーディオシステム

品番　SC-HTR10

VIERA ビエラ
VIERA Link
DIGA
VIERA Link

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

保証書別添付

「組み立て説明書」別冊

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に**「安全上のご注意」（➔ 31 〜 33 ページ）を必ずお読みください。**
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書、組み立て説明書とともに大切に保管してください。

HDMI™
HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

VIERA Link

ホームシアター完成までの流れ



ステップ 1 ラックを組み立てる（➜ 別冊の「組み立て説明書」）

必ず組み立て説明書に従って組み立ててください。

ステップ 2 ラックを設置する（➜ 7 ～ 10 ページ）

- 安全のため、必ずテレビの転倒防止処置をしてください。

ステップ 3 テレビとレコーダーを接続する（➜ 11 ページ）

（本システムには、テレビやレコーダーなどの各機器は含まれておりません。）

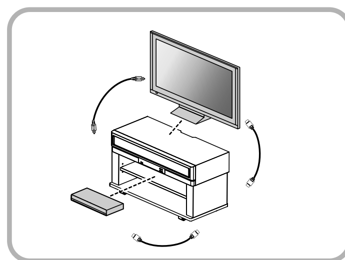
必要なケーブル（品番は、「別売品のご紹介」（➜ 10 ページ）を参照してください。）

（音声・映像）

● HDMI ケーブル：2 本（別売）

（音声）

● 光デジタルケーブル：1 本（別売）



- HDMI ケーブルの接続だけでは、本システムでテレビの音声を楽しむことができません。本システムでテレビの音声を楽しむ場合は、本システムとテレビを光デジタルケーブルで接続してください。
- HDMI ケーブルで接続すると、DVD などが高画質・高音質で楽しめます。
- HDMI 接続するには、テレビとレコーダーの両方に HDMI 端子が必要です。
- テレビの推奨サイズ（ラックの耐荷重量）は 32V 型以下（30 kg 以下）です。

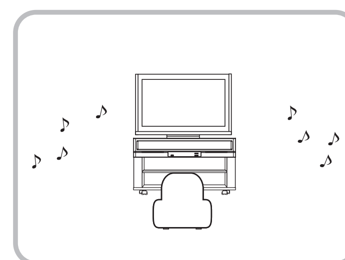
お知らせ

32V 型テレビは、横に少しはみ出します。

☞ HDMI 端子がない映像機器（テレビ、DVD プレーヤー、ビデオデッキなど）を接続する場合は、12 ページをご覧ください。

ステップ 4 映画や音楽を楽しむ（➜ 17 ～ 19 ページ）

DVD やテレビの音声をサラウンド効果で楽しむことができます。



■本システムにはスピーカーが内蔵されています。

フロントスピーカー、サブウーハーは、他のスピーカーを接続しないでください。

他のスピーカーを使用すると、正しい特性の音が得られず、また故障の原因になります。

■本システムは、ワイヤレスのサラウンドスピーカーは接続できません。

もくじ

「安全上のご注意」を必ずお読みください。
（→ 31 ～ 33 ページ）

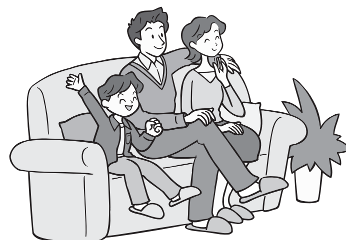
まず



準備



楽しむ



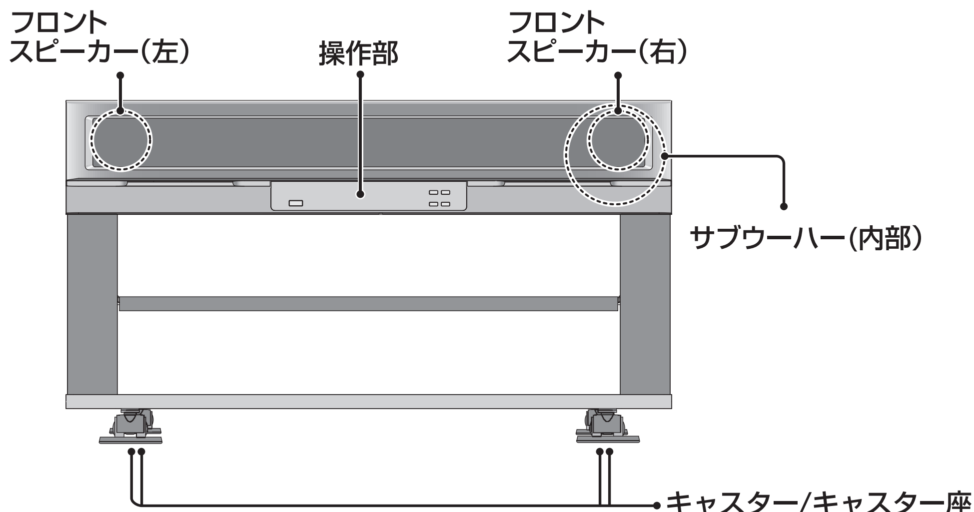
ご参考



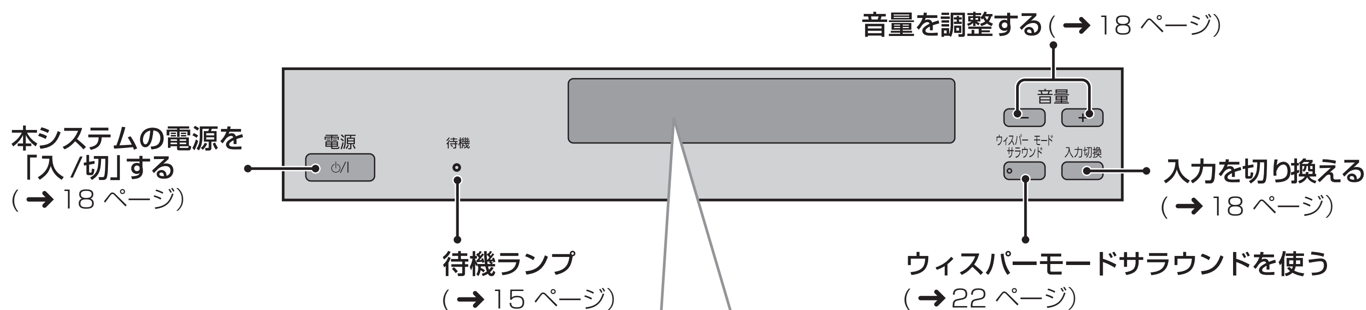
各部のはたらき

本体

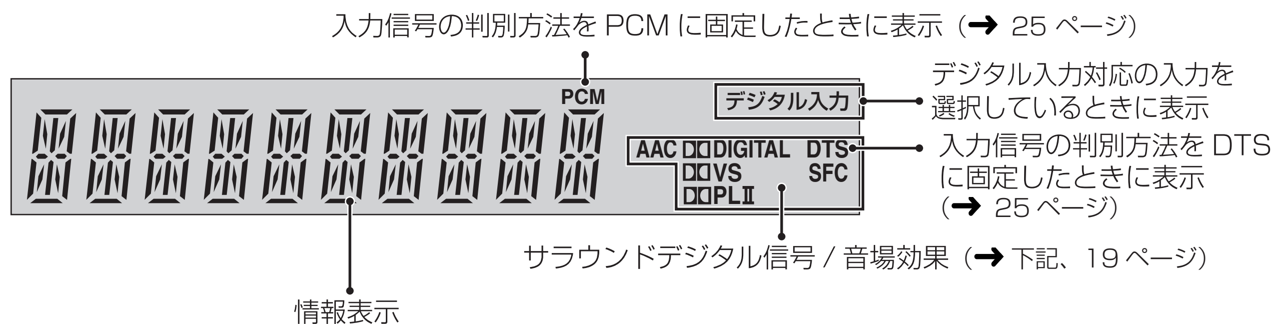
前面



操作部

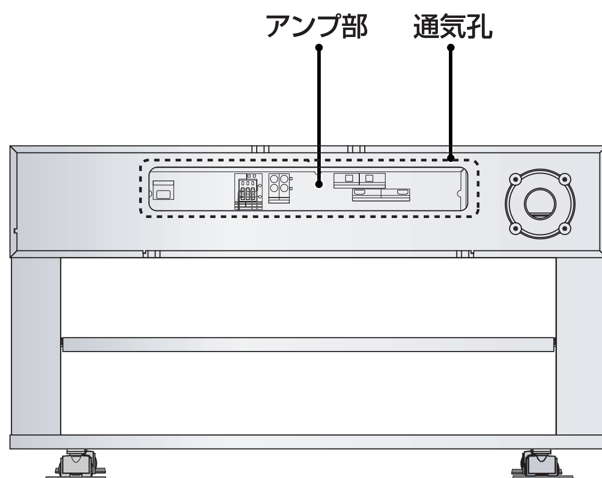


表示部

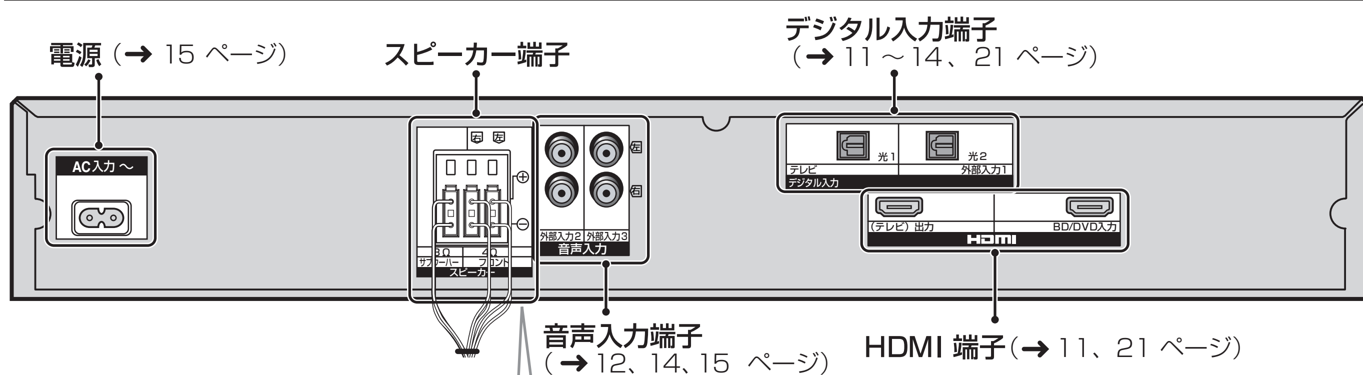


AAC	：AAC 信号（BS デジタル放送など）を再生しているとき	SFC	：SFC が働いているとき
DIGITAL	：ドルビーデジタル信号を再生しているとき	PLⅡ	：ドルビープロロジックⅡデコーダーが働いているとき（2 チャンネルのステレオ信号にドルビーバーチャルスピーカーを使用したとき）
DTS	：DTS 信号を再生しているとき		
VS	：ドルビーバーチャルスピーカーが働いているとき		

後面



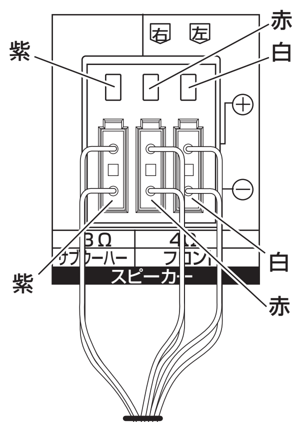
アンプ部



スピーカー端子について

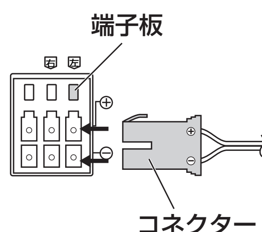
本システムでは、スピーカーはあらかじめ接続されています。特に必要がなければ、コネクターには触らないようにしてください。
コネクターが外れた場合などは、下図を参考に接続してください。

コネクター接続図



コネクターの付けかた

コネクターの色と端子板の色を合わせて、まっすぐ奥まで差し込む。



各部のはたらき（つづき）

リモコン

本システムの電源を「入 / 切」する（➜ 16、17 ページ）

入力を切り換える（➜ 17 ページ）

音量バランスの調整をする（➜ 23 ページ）

サブウーハーの音量調整をする（➜ 16、22 ページ）

ウィスパーモードサラウンドを使う（➜ 22 ページ）

音量を調整する（➜ 16、17 ページ）

ゲームサウンドを使う（➜ 22 ページ）

一時的に音を消す（➜ 22 ページ）

調整・設定をする / 設定を決定する（➜ 22 ～ 26 ページ）

テスト信号を出力する（➜ 16 ページ）
設定の操作に入る（➜ 22 ～ 26 ページ）

設定項目を一つ前に戻す（➜ 22 ～ 26 ページ）

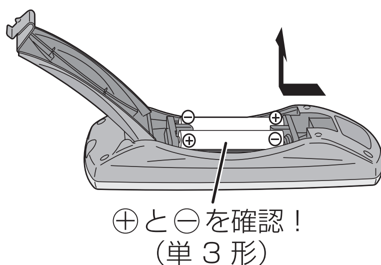
ドルビーバーチャルスピーカー、SFC のモードを選択、「入 / 切」する（➜ 19 ページ）

電源
テレビ　BD/DVD　外部入力
バランス　左　右
サブウーハーレベル　−　＋
ウィスパーモードサラウンド
音量　−　＋
ゲーム　消音
決定
テスト/設定　戻る
バーチャルスピーカー
SFC
2CH (ステレオ)　音楽　映画

リモコンの準備

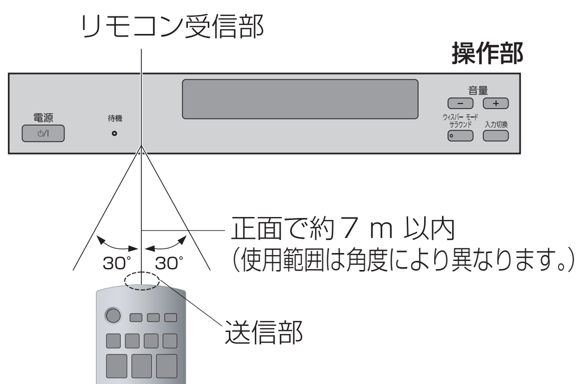
乾電池の入れかた

ふたのふちを押しながら開ける



⊕と⊖を確認！
（単 3 形）

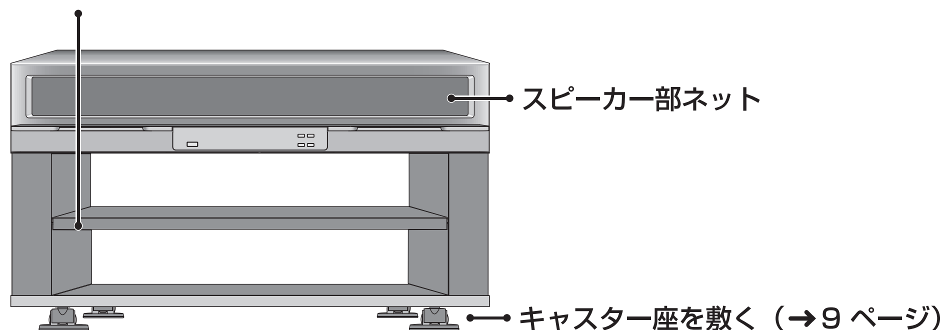
リモコンの使いかた



■使用上のお願い

- 受信部とリモコンの間に障害物を置かない。
- 受信部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光を当てない。
- 受信部と送信部のほこりに注意。

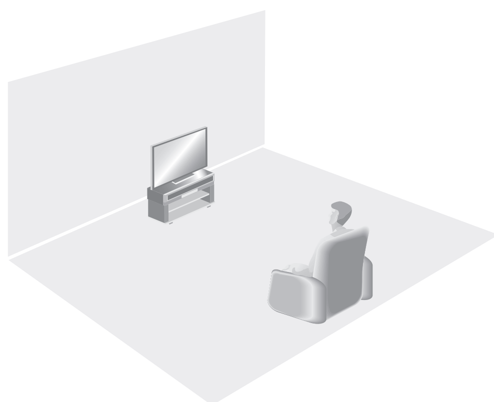
ラックの設置と取り付け



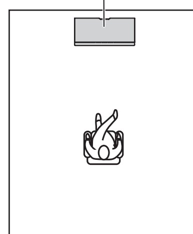
各機器の設置（ブルーレイディスクレコーダー/DVDレコーダー ➜9 ページ）
（テレビ ➜ 9 ページ）

設置について

■ 設置作業は 2 人で行ってください。
■ プラスドライバーを用意してください。
■ 不安定な場所を避けて、設置してください。



設置例

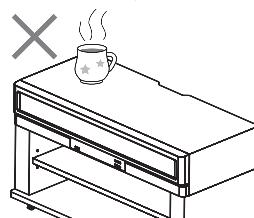


- 転倒しないよう、必ず水平な場所にぐらつかないように設置し、テレビの転倒防止などの十分な安全対策を行ってください。キャスターを取り付けて使用する場合は、必ずキャスター座を敷いてください。
- キャスター座や棚板の取り付け、各機器の接続の際には、作業スペースが必要ですので、ご注意ください。
- 後面の通気孔をふさぐことになるので、カーテンなどの前には置かないようにしてください。
- 本システムを設置する際は、前面のスピーカー部のネットには、力を加えないようにしてください。
- 床材の素材によっては、キャスターの回転跡が残る場合があります。
- キャスターを取り外す場合は、8 ページをご覧ください。

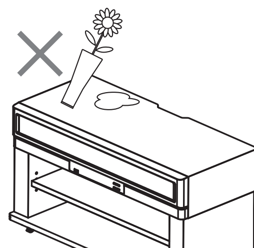
ラックについて

■ テレビ以外は置かないでください。特に以下のような物は置かないでください。

- **熱いもの**
  跡が付いて、取れなくなる場合があります。



- **水の入った花瓶など**
  倒れた際、水が本システムにかかり、故障の原因になります。



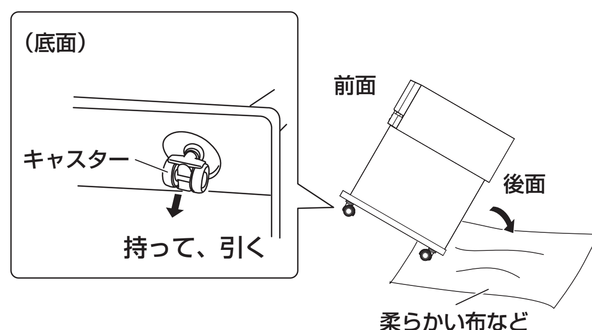
お知らせ

天板の上に物を置いたり、移動する場合は、持ち上げて移動してください。引きずると、ラックの天板を傷つけることがあります。

ラックの設置と取り付け（つづき）

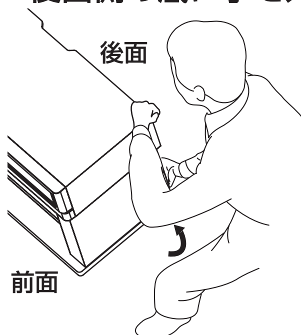
キャスターを取り外す場合（完成後）

- 不安定な場所では、キャスターを外してください。
  （畳、毛足の長いじゅうたんの上、やわらかい床材の上など）
- キャスターを外す場合は、床に柔らかい布などを敷いて、後面側に倒してください。その場合、必ず 2 人以上で行ってください。
- キャスターは、持って引くと外れます。
- キャスター取り外し時は、ラックの上や中には何も置かないでください。（アンプ部・スピーカー部は固定されていますので取り外す必要はありません。）
- キャスターを取り外してラックを移動するときは、必ず底板を持って、2人以上で行ってください。持ち上げかたについては、下記をご覧ください。

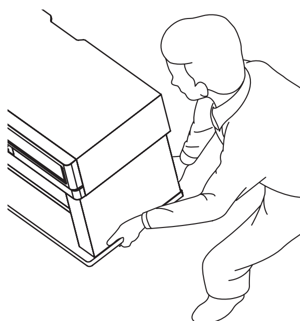


キャスターを外したときのラックの持ち上げかた

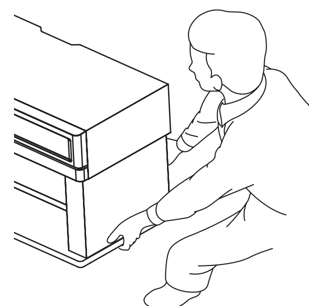
① 天板後面を持ち上げ、後面側の底に手を入れる



② 側面側の底に手を入れる



③ 左右の手で水平になるように持ち上げる

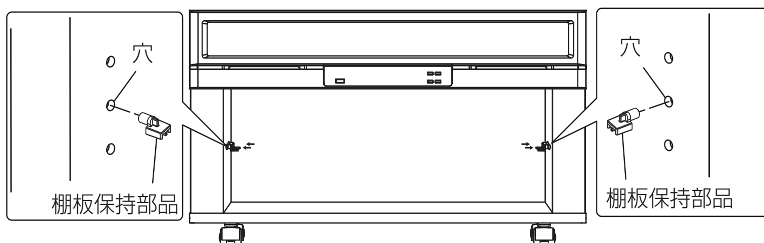


- ラックの下に指をはさまないようにご注意ください。

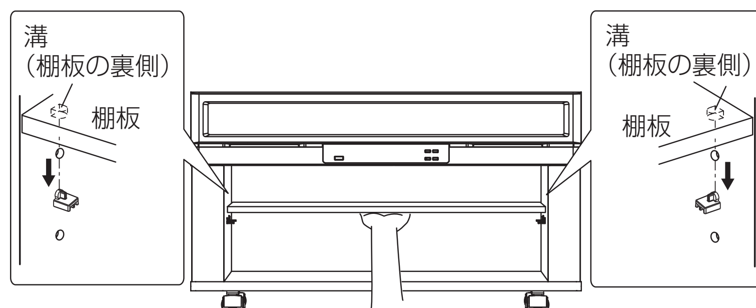
棚板の取り付け

1 左右同じ高さの穴に棚板保持部品（付属）を差し込む。

- 棚板の高さは、3 段階に調整できます。
- 棚板保持部品を差し込む穴を変えて、棚板の高さを調整してください。
- 棚板を設置しない場合でも、棚板保持部品はなくさないように差し込んでおいてください。



2 棚板（付属）をまっすぐに差し込み、棚板保持部品の上に棚板の溝が合うように棚板を水平に設置する。



（棚板に収納できる製品について）　単位（mm）

設置位置	棚板位置	収納部高さ	奥行き	収納部幅
上段Ⓐ	上	80.5	棚板奥行き316	656
	中	110.5		
	下	140.5		
下段Ⓑ	上	136.7	底板奥行き350	
	中	106.7		
	下	76.7		

ブルーレイディスクレコーダー /DVD レコーダーなど収納する機器の設置（各機器の取扱説明書もご覧ください。）

機器を設置した後、接続してください。

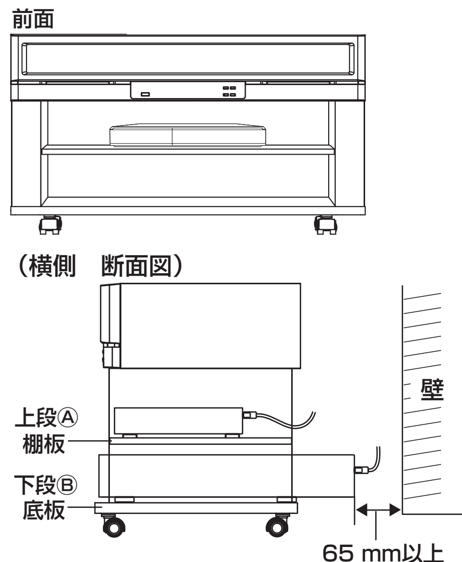
- 設置する機器の取扱説明書に放熱や通風に関する要求事項が記載されている場合には、通気を確保してください。
- 側面に排気孔を持つ機器を設置する場合は、機器の取扱説明書に記載された指示に従い、設置してください。
- 本システムと各機器の接続については、11 ～ 15 ページをご覧ください。

お知らせ

- 棚板（上段Ⓐ）、底板（下段Ⓑ）共に 12 kg を超える機器を設置しないでください。
- 録画機器を棚板（上段Ⓐ）に載せると、映像に障害が出る場合があります。その場合は、底板（下段Ⓑ）に設置してください。

■奥行きの長い製品を設置する場合

- 壁際などに設置し、背面部の結線部分が壁面に触れ、線材や機器に負担が加わり、故障や動作不良の原因になる場合があります。壁などより右図のように離して設置してください。ラック移動の際には配線材に負担が加わらないようにご注意ください。



キャスター座を敷く

本システムが動かないように、キャスターの下にキャスター座を敷いて、固定する。

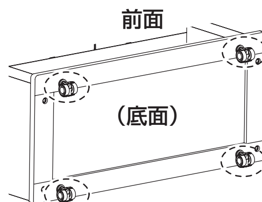
- キャスター座を置くときは、下図のようにキャスターカバーとキャスター座の矢印を合わせてください。



- キャスター座を置くときは、必ず 2 人以上で行ってください。また、指をはさまないようにご注意ください。
- キャスター座を取り外すときは、ラックを持ち上げてください。ラックの持ち上げかたについては 8 ページをご覧ください。

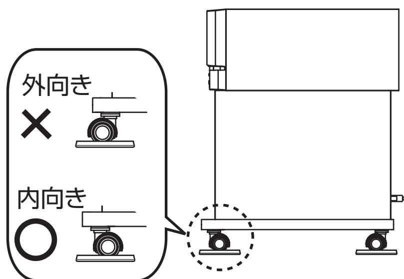
（キャスター座位置）

下図の点線で囲んだキャスターの下にキャスター座を敷きます。



（キャスターの向き）

キャスターカバーがはみ出さないように、前側のキャスターカバーを内向きに設置してください。



テレビの設置（テレビの取扱説明書もご覧ください。）

推奨サイズ　32V 型以下

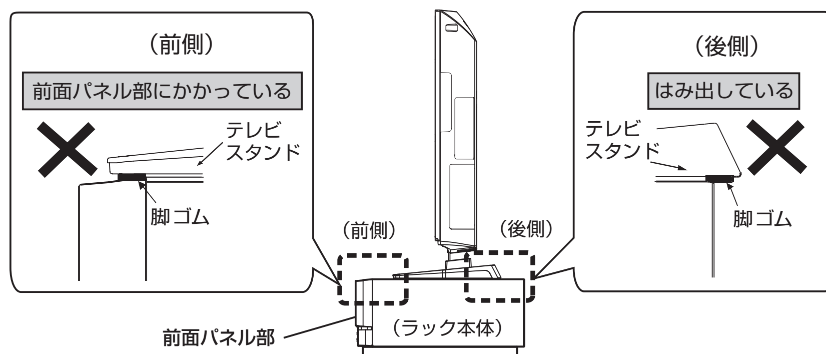
テレビ（据え置きスタンド付き）はラック天板の中央に設置してください。

- 回転式テレビスタンドの場合、回転時にラックの天面部からはみ出すとパネルにかぶさり指をはさみ込む危険があります。
- 設置の際は、右記の点にご注意ください。

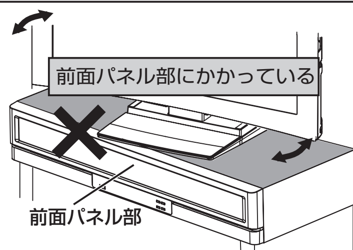
お知らせ

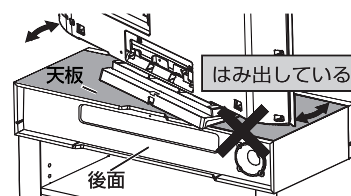
- 据え置きスタンドは別売の場合もあります。
- テレビは持ち上げて移動してください。引きずるとラックの天板を傷つけることがあります。
（持ちかたについては、テレビの取扱説明書をご覧ください。）
- 32V 型テレビは横に少しはみ出します。

テレビスタンドの脚ゴムが天板から前後左右ともにはみ出ないように、また前面パネル部にかからないように設置する



テレビスタンドは（回転式のテレビスタンドの場合は、回転しても）前面パネル部にかからないように、またラック天板の後部よりはみ出さないように設置する





準備

ラックの設置と取り付け（つづき）

ラックの設置と取り付け（つづき）

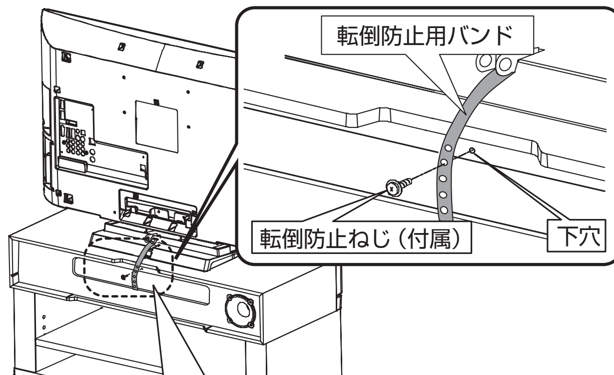
転倒防止について

テレビが転倒しないように、テレビをラックと壁に固定する。

■ラックへの固定

- **必ず付属の転倒防止ねじで**、テレビに付属の転倒防止用バンドなどを右図のように取り付けてください。（転倒防止用バンドがテレビに付属していない場合には、市販のバンドで固定してください。）
  転倒防止用バンドは、ラック裏側中央の天板下側の下穴に取り付けてください。
  ねじ締め付け用下穴の位置がテレビのバンド取り付け位置と合わない場合は、裏側の右図の範囲内（開口部上部、元の下穴と同じ高さ）の適当な位置に直径 2 mm 程度の下穴を開けて、転倒防止ねじで取り付けてください。

（設置例）





◯◯お知らせ◯◯

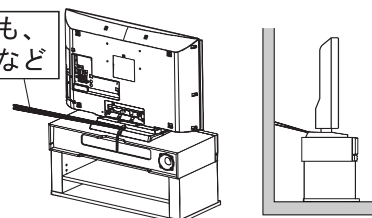
- 強く締めすぎると、空回りして固定できなくなります。
- 転倒防止ねじは、必ず本システムに付属されているものを使ってください。
  （転倒防止ねじは 2 本付属しています。1 本は予備としてお使いください。）

- テレビに付属の転倒防止用バンドをテレビへ取り付けるには、テレビの取扱説明書に従ってください。

■壁面への固定

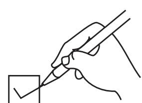
- 壁や柱の材質に適した市販のねじ、丈夫なひも、または鎖などを使用して堅牢部にしっかりと取り付けてください。
- 壁や柱にはテレビの重量を支えられる強度が必要です。詳しくは、施工者の方などにご相談ください。

（設置例）



イラストはイメージです。実際の商品と形状が異なる場合があります。

付属品

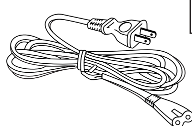


付属品をご確認ください。

●●お願い●●

- 付属品の買い替えは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- かっこ【 】内は、買い替え時の品番です。
  （品番は 2008 年 6 月現在のものです。品番は変更されることがあります。）
- 電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
- 包装材料などは商品を取り出したあと、適切に処理をしてください。

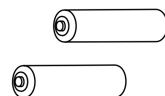
□ 電源コード（1 本）
【RJA0012-1A】



□ リモコン（1 個）
【N2QAYB000302】



□ リモコン用乾電池
（単 3 形：2 個）



別売品のご紹介

コード/ケーブル名	長さ	品　番	コード/ケーブル名	長さ	品　番
HDMIケーブル	(1.0 m)	RP-CDHG10	ステレオピンコード	(0.5 m)	RP-CAP3G05
	(1.5 m)	RP-CDHG15		(1.0 m)	RP-CAP3G10
	(2.0 m)	RP-CDHG20		(1.5 m)	RP-CAP3G15
	(3.0 m)	RP-CDHG30		(2.0 m)	RP-CAP3G20
光デジタルケーブル	(0.5 m)	RP-CA2005		(3.0 m)	RP-CAP3G30
	(1.0 m)	RP-CA2010		(5.0 m)	RP-CAP3G50
	(1.5 m)	RP-CA2015		(10.0 m)	RP-CAP3G100
	(2.0 m)	RP-CA2020			
	(3.0 m)	RP-CA2030			

付属品と別売品は販売店でお買い求めいただけます。
パナソニックグループのショッピングサイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。

Pana Sense

http://www.sense.panasonic.co.jp

ケーブル類は、置きかたや接続方法などにより、必要な長さが異なります。ご購入の際は、長さを十分確認してください。
別売品の品番は、2008 年 6 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

接続する

●接続するときは、各機器の電源を切ってください。
●接続する各機器の取扱説明書もご覧ください。
●背面部の結線部分が壁面に触れ、線材や機器に負担が加わらないようにしてください。
（特にイコライザー付き HDMI ケーブルは、プラグの形状が大きいため、注意が必要です。）

HDMI 端子のある機器（テレビ、DVD レコーダーなど）を接続する

使用するケーブル（別売品の品番は、「別売品のご紹介」（➜ 10 ページ）を参照してください。）

HDMI ケーブル（別売）	光デジタルケーブル（別売）
	角型 

HDMI ケーブルについて
- 当社製 HDMI ケーブルを推奨します。
- HDMI ロゴ（➜ 表紙）のある「High Speed HDMI™ ケーブル」をお買い求めください。
- 1080p 出力時は、5.0 m 以下の HDMI ケーブルをおすすめします。

テレビ
HDMI 入力
デジタル音声出力（光）

テレビの音声をサラウンドで楽しむ場合に接続し、テレビのデジタル音声出力を“自動”に設定してください。

光デジタルケーブルの接続方法
形状を合わせて差し込む
ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

アンプ部

ブルーレイディスクレコーダー/DVDレコーダーなど
HDMI 映像・音声出力

テレビのスピーカーだけで楽しむ

- テレビとレコーダーなどの映像機器を本システムと HDMI 接続している場合、本システムの電源を切っても、レコーダーからの映像 / 音声信号が本システムを通過して、テレビへ伝送されます。**（スタンバイスルー機能）**テレビのスピーカーだけで楽しみたいときに便利です。
- x.v.Color（➜ 30 ページ）で記録された映像にも対応しています。

お知らせ

電源を切る前に入力を“***BD/DVD***”以外に設定していても、本システムの電源を切ると、本システムの BD/DVD 入力端子に接続したレコーダーの映像 / 音声信号がテレビから出力されます。（再度、本システムの電源を入れると、設定していた入力に戻ります。）

接続する（つづき）

HDMI 端子がない機器（DVD プレーヤー、ビデオデッキなど）を接続する

使用するケーブル（別売品の品番は、「別売品のご紹介」（➔ 10 ページ）を参照してください。）

光デジタルケーブル（別売）	ステレオピンコード（別売）
角型	

※映像コードに関しては、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

テレビ

デジタル
音声出力(光)

映像機器の映像出力とテレビの映像入力を直接接続してください。

映像入力

この接続をすると、本システムの電源を切っても、接続した各機器の音声信号がテレビから出力されます。

音声入力

テレビの音声をサラウンドで楽しむ場合に接続し、テレビのデジタル音声出力を“自動”に設定してください。

光デジタルケーブルの接続方法

形状を合わせて差し込む

ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

映像
コード

音声
コード

アンプ部

外部入力2　外部入力3
音声入力

テレビ
デジタル入力
光 1
光 2
外部入力1

(テレビ) 出力
HDMI
BD/DVD入力

Ⓑ

Ⓐ

DVDプレーヤー、
ビデオデッキなど

右　左
音声出力

デジタル
音声出力(光)

映像出力

音声出力

お持ちの機器やお好みに合わせて、Ⓐ または Ⓑ の接続をしてください。

●接続するときは、各機器の電源を切ってください。
●接続する各機器の取扱説明書もご覧ください。
●背面部の結線部分が壁面に触れ、線材や機器に負担が加わらないようにしてください。

CATV セットトップボックス、BS デジタルチューナー、CS チューナーなどを接続する

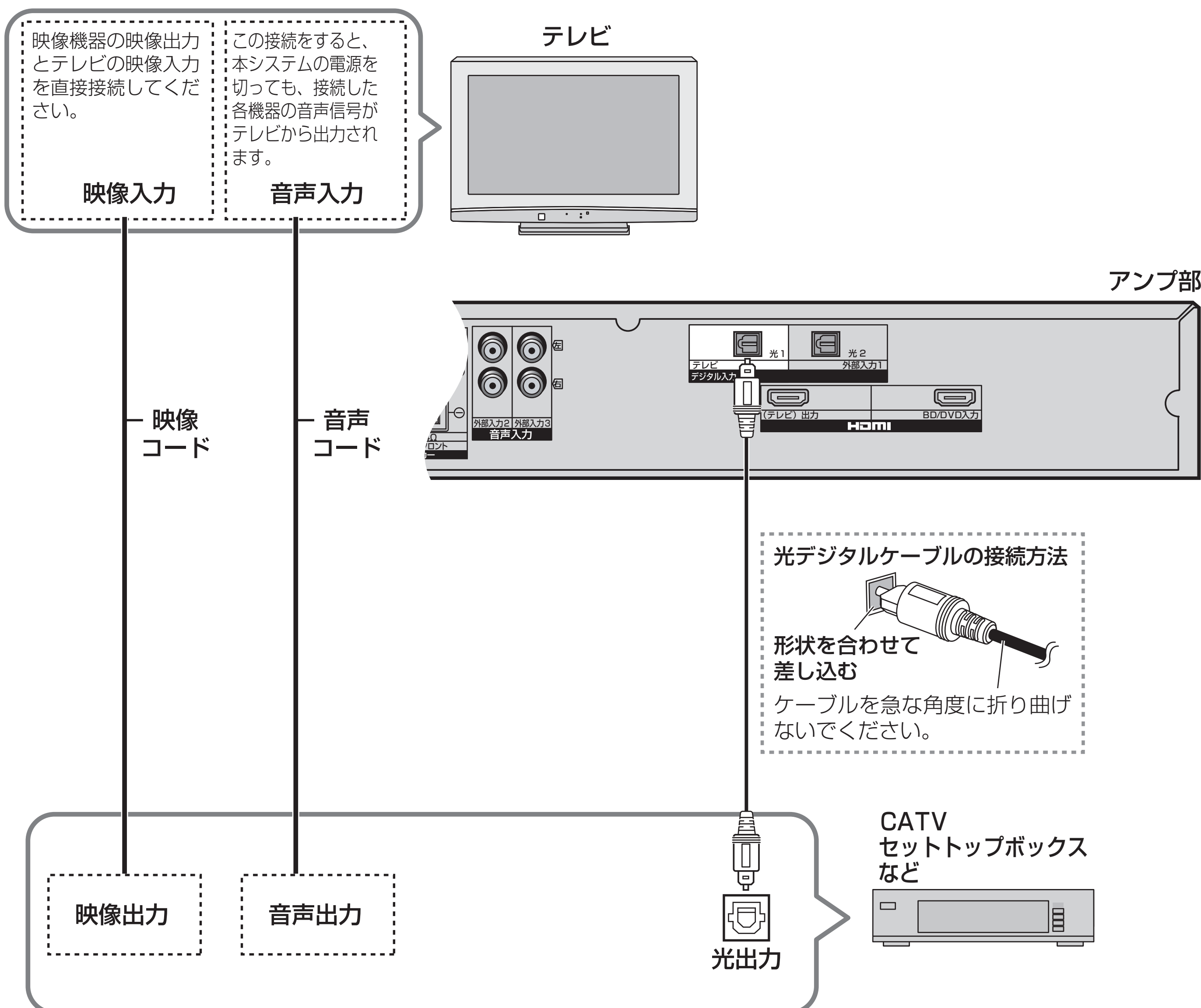
テレビ用の入力端子を使って接続します。

使用するケーブル（別売品の品番は、「別売品のご紹介」(➔ 10 ページ）を参照してください。）

光デジタルケーブル（別売）

角型

※映像コードに関しては、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。



接続する（つづき）

ビデオデッキ一体型 DVD レコーダーを接続する

DVD/ VHS専用端子がある場合の接続です。

使用するケーブル（別売品の品番は、「別売品のご紹介」（➜ 10 ページ）を参照してください。）

光デジタルケーブル（別売）	ステレオピンコード（別売）
角型	

※映像コードに関しては、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

テレビ

デジタル
音声出力(光)

映像機器の映像出力とテレビの映像入力を直接接続してください。

映像入力

この接続をすると、本システムの電源を切っても、接続した各機器の音声信号がテレビから出力されます。

音声入力

光デジタルケーブルの接続方法

形状を合わせて
差し込む

ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

テレビの音声をサラウンドで楽しむ場合に接続し、テレビのデジタル音声出力を"自動"に設定してください。

映像
コード

音声
コード

アンプ部

外部入力2 外部入力3
音声入力

光1 テレビ デジタル入力
光2 外部入力1

(テレビ) 出
HDMI
BD/DVD入力

ビデオデッキ一体型
DVDレコーダー

右 左
音声出力
VHS/DVD
出力端子

光出力
DVD専用
出力端子

映像出力

音声出力

お知らせ

再生については、18 ページをご覧ください。

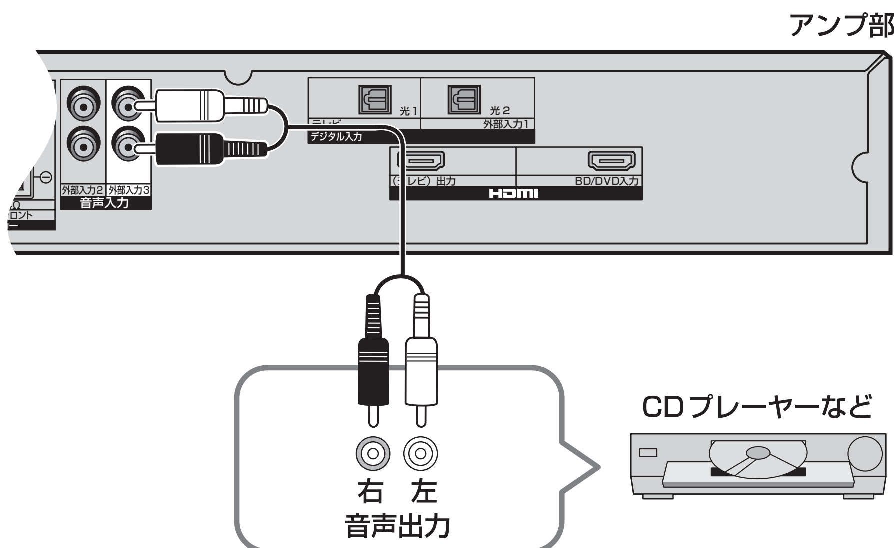
- 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
- 接続する各機器の取扱説明書もご覧ください。
- 背面部の結線部分が壁面に触れ、線材や機器に負担が加わらないようにしてください。

オーディオ機器（CD プレーヤーなど）を接続する

使用するケーブル（別売品の品番は、「別売品のご紹介」（➜ 10 ページ）を参照してください。）

ステレオピンコード（別売）

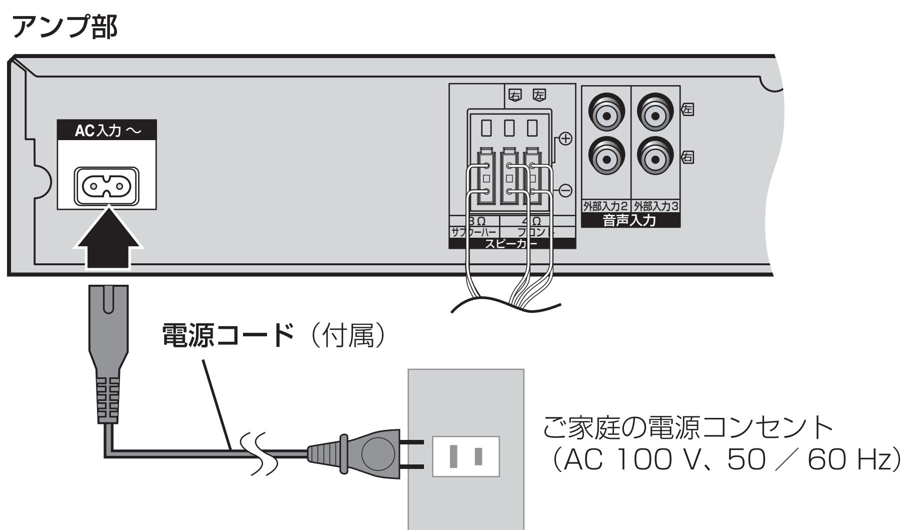




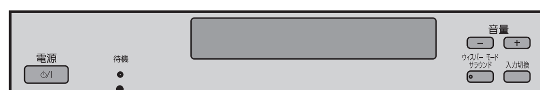
電源コードの接続

電源コードは必ず最後に接続してください。

電源プラグをコンセントに接続した状態で 約 0.6 W（省待機電力モード時（➜ 23 ページ）は約 0.2 W）の電力を消費しています。長期間使用しないときは節電のため抜いておくことをおすすめします。



[待機] ランプについて



電源コードを接続すると、電源「切」のときに
[待機] ランプが点灯(赤色)します。
電源を「入」にすると消灯します。

スピーカーの音を確認・調整する



テスト信号で音声の出力を確認する

1. 電源 押して、本システムの電源を入れる
2. テスト/設定 押して、音声出力を確認する

TEST L
スピーカー表示

3. − + 音量 押して、フロントスピーカーを通常聞く音量にする

VOLUME 16

● 約 2 秒間隔で下記の順にテスト信号が出力されます。
L（フロント左）→ *R*（フロント右）→ *SUBW*（サブウーハー）

4. テスト/設定 押して、テスト信号を止める

お知らせ

スピーカーからテスト信号が出力されない場合は、コネクターの接続を確認してください。（➜ 5 ページ）

サブウーハーの音量を調整する

サブウーハーの音量がフロントスピーカーの音量とバランスが合わないと感じた場合、サブウーハーの音量調整をします。

1. テスト信号を出力する（➜ 上記　手順 1 〜 3）

2. サブウーハーレベル − + **押して、サブウーハーの音量を調整する**

SUBW 15

調整範囲：*OFF*、*MIN*、*1 〜 19*、*MAX*

● サブウーハーからのみテスト信号が出力されます。
● 操作後、約 2 秒経つと、再び順に出力されます。

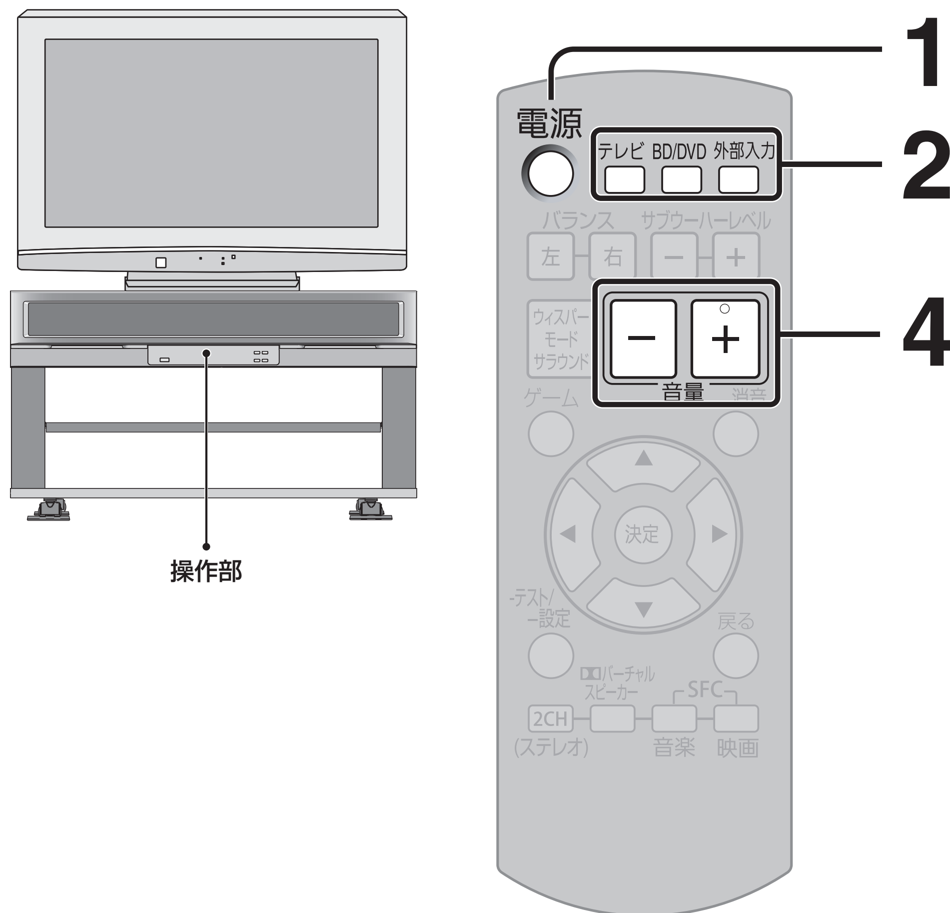
3. テスト/設定 **押して、テスト信号を止める**

お知らせ

● 左右フロントスピーカーの音量バランス調整は「音量バランスの調整をする」（➜ 23 ページ）を参照してください。
● サブウーハーの調整で *“OFF”* を選ぶと、サブウーハーから音が出ません。
● この調整でサブウーハーのレベルを調整しても、SFC 各モードのサブウーハーのレベル設定は変化しません。
● この調整をすると、ドルビーバーチャルスピーカーが働きます。2 チャンネル信号を再生している場合は、連動してドルビープロロジックⅡも働きます。（➜ 19 ページ）
● 映画や音楽を再生しながらサブウーハーの音量を調整することもできます。（➜ 22 ページ）

映画や音楽を楽しむ

準備 テレビの電源を入れ、テレビのリモコンで本システムを接続した入力（[HDMI] など）に切り換える。



■本システムで再生できるデジタル信号については 29 ページをご覧ください。

1 電源

本システムの電源を入れる

押す

2 テレビ または BD/DVD または 外部入力

接続している機器の入力を選ぶ

押す

BD/DVD （初期設定）

TV	：テレビ
BD/DVD	：ブルーレイディスクレコーダー、DVD レコーダー
AUX 1	：外部入力 1 端子に接続した機器
AUX 2	：外部入力 2 端子に接続した機器
AUX 3	：外部入力 3 端子に接続した機器

■ “*AUX 1*”、“*AUX 2*”、“*AUX 3*”は [外部入力] を押すごとに切り換わります。

3 接続している機器を再生する

■ いろいろなサラウンド効果を楽しむことができます。（➜ 19 ページ）

4 − ＋ 音量

音量を調整する

押す

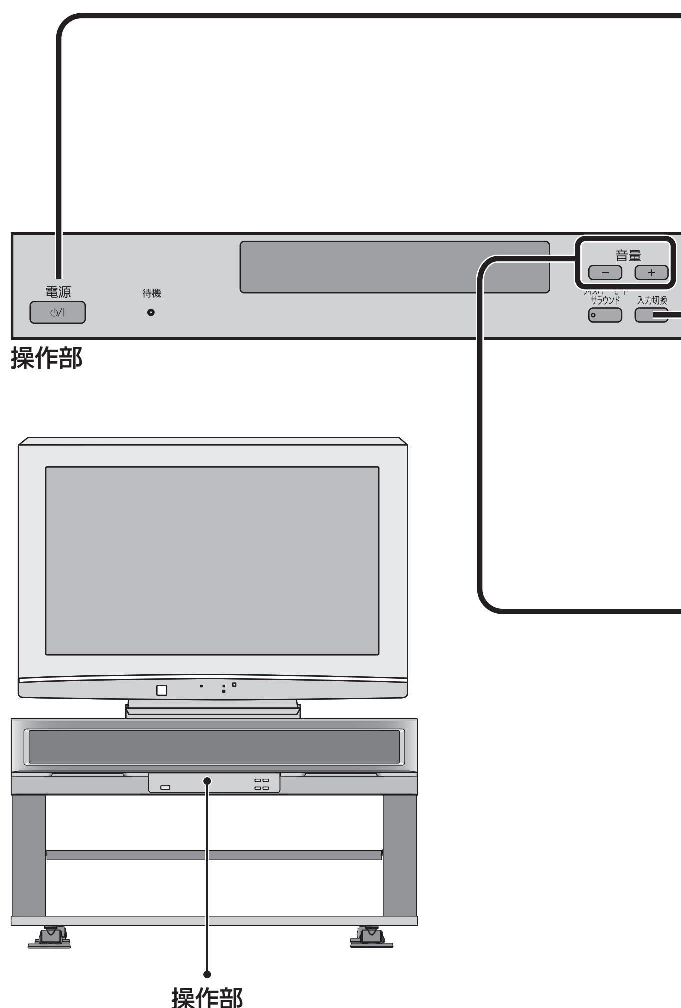
VOLUME 16

0（最小）~ *50*（最大）

■ 再生を楽しんだ後は、音量を下げてから [電源] を押して電源を切ってください。

映画や音楽を楽しむ（つづき）

本体で操作する場合



1 本システムの電源を入れる

電源 ⏻/I 押す

2 接続している機器の入力を選ぶ

入力切換 押す（入力は押すごとに切り換わります。）

TV	：テレビ
BD/DVD（初期設定）	：ブルーレイディスクレコーダー、DVD レコーダー
AUX 1	：外部入力 1 端子に接続した機器
AUX 2	：外部入力 2 端子に接続した機器
AUX 3	：外部入力 3 端子に接続した機器

3 接続している機器を再生する

4 音量を調整する

音量 − ＋ 押す

VOLUME 16

0（最小）***~ 50***（最大）

■ 再生を楽しんだ後は、音量を下げてから[電源 ⏻/I]を押して電源を切ってください。

お知らせ

- 再生する信号によっては、サブウーハーの音量が、フロントスピーカーの音量とバランスが合わないと感じることがあります。そのような場合は、再生中でもサブウーハーの音量調整ができます。（➜ 22 ページ）
- "***BD/DVD***" 以外に入力を切り換えても、BD/DVD 入力端子に接続した機器の映像（または音声）は、テレビ出力端子から出力されます。

ビデオデッキ一体型 DVD レコーダーを再生する

DVD/VHS 専用出力端子がある機器の場合は、上記手順 2 で入力を以下のように選んでください。リモコンでも操作できます。

- DVD を楽しむとき（外部入力 1（光 2）端子につないでいるとき）："***AUX 1***" に合わせる
- ビデオを楽しむとき（外部入力 2 端子につないでいるとき）："***AUX 2***" に合わせる

いろいろな音場効果を楽しむ

音場効果は入力信号によって異なります。実際の音をお聞きのうえ、お好みのモードを選んでください。

■ドルビーバーチャルスピーカー

5．1 チャンネルで聞いているようなサラウンド効果が楽しめます。（ビデオや CD などのステレオ信号には同時にドルビープロロジックⅡが働きます。）ドルビーバーチャルスピーカーには、以下のモードがあります。

***REFERENCE*（標準モード）**	標準的な効果が得られるモードです。
***WIDE*（ワイドモード）**	左右の音場を更に広くするモードです。

■ SFC（Sound Field Control）（サウンドフィールドコントロール）

ドルビーデジタル、DTS、AAC、ステレオ信号（ビデオや CD など）に臨場感や広がり感を与えたサラウンド効果が楽しめます。SFC には、以下のモードがあります。

音楽		映画	
***LIVE*（ライブ）**	大きなコンサートホールにいるような音の反響と広がり。	***NEWS*（ニュース）**	セリフがメインになるようなニュースやドラマに適した効果。
***POP/ROCK*（ポップ / ロック）**	ポピュラーやロック音楽に適した効果。	***ACTION*（アクション）**	迫力のあるアクション映画に適した効果。
***VOCAL*（ボーカル）**	ボーカルの声を際立たせる効果。	***STADIUM*（スタジアム）**	スポーツ観戦しているような臨場感。
***JAZZ*（ジャズ）**	ジャズクラブのような狭い部屋の音の反響。	***MUSICAL*（ミュージカル）**	ミュージカル劇場にいるような臨場感。
***DANCE*（ダンス）**	ダンスホールのような広い空間で響いている音の広がり感。	***GAME*（ゲーム）**	迫力のあるサウンドでゲームなどを楽しむとき。
		***MONO*（モノラル）**	昔のモノラル音声の映画などに適した効果。



ドルビーバーチャルスピーカーを使う

[バーチャルスピーカー] 押す

- 押すたびにモードが切り換わります。（➔ 上記）

REFERENCE DVS

SFC（Sound Field Control）（サウンドフィールドコントロール）を使う

ドルビーバーチャルスピーカー（➔ 上記）の効果に、さらにお好みのサラウンド効果を加えて楽しめます。

SFC [音楽] [映画] 押す

- 押すたびにモードが切り換わります。（➔ 上記）

LIVE DVS SFC

☞ **SFC の効果を解除する**
[バーチャルスピーカー] を押す

音場効果を切る（ドルビーバーチャルスピーカー、SFC を切る）

[2CH (ステレオ)] 押す

- CD やテレビなどの 2 チャンネル信号はサラウンド効果がない状態になります。
- 入力信号がドルビーデジタルや DTS などのサラウンドデジタル信号やマルチチャンネル LPCM 信号は、信号を 2.1 チャンネルに集約し、左右フロントスピーカー、サブウーハーから出力します。

お知らせ

- サラウンドデジタル信号 / 音場効果の表示については、4 ページをご覧ください。
- マルチチャンネル LPCM 信号には、SFC は使用できません。
- PCM のサンプリング周波数が 48 kHz を超える信号には、ドルビーバーチャルスピーカー、SFC は使用できません。入力されると自動的に解除されます。その後、他の信号を再生して効果を使用するには、再び [バーチャルスピーカー] や [SFC 音楽 、映画] を押して選んでください。
- SFC の“***GAME***”モード（➔ 上記）は、リモコンの [ゲーム] を押すことでも選べます。（ ➔ 22 ページ）

ビエラリンク（HDMI）を使う

ビエラリンク（HDMI）（HDAVI Control™）とは
- 本システムと HDMI ケーブル（別売品）を使って接続したビエラリンク対応機器を自動的に連動させて、リモコン 1 つで簡単に操作できる機能です。各機器の詳しい操作については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
  ※すべての操作ができるものではありません。
- ビエラリンク（HDMI）は、HDMI CEC（Consumer Electronics Control）と呼ばれる業界標準の HDMI によるコントロール機能をベースに、当社独自機能を追加したものです。他社製 HDMI CEC 対応機器との動作保証はしておりません。
- ビエラリンク（HDMI）に対応した他社製品については、その製品の取扱説明書をご確認ください。
- 本システムはビエラリンク（HDMI）Ver.3 に対応しています。
  ビエラリンク（HDMI）Ver.3 とは、従来の当社製ビエラリンク（HDMI）機器にも対応した当社基準です。
  （2007 年 12 月現在）

ビエラリンク（HDMI）でできること

ビエラリンク（HDMI）を正しく動作させるために

本システムの電源ボタン（リモコン含む）で電源を入れずに、テレビ（ビエラ）のリモコンで「音声を AV アンプから出す」を選択してください。（本システムの電源が自動的に入ります。）
- テレビ（ビエラ）のリモコンで操作します。
- テレビ（ビエラ）の取扱説明書もご覧ください。

1. **スピーカー切換ができます（「音声を AV アンプから出す」または「音声をテレビから出す」）。**
   「音声を AV アンプから出す」：本システムがスタンバイ状態のとき、音声が入力されると、自動的に電源が入り、本システムのスピーカーから音声が出力される設定になります。
   「音声をテレビから出す」：テレビ（ビエラ）のスピーカーから音声が出力される設定になります。

   - テレビによって、操作は異なります。

2. **テレビ（ビエラ）のリモコンで、テレビ（ビエラ）の電源を切ると自動的に本システムの電源も切れます。**
   ビエラリンク（HDMI）に対応したレコーダー（ディーガ）と HDMI ケーブルで接続している場合は、レコーダー（ディーガ）の電源も切れます。

3. **サウンドを切り換えることができます。**
   （ビエラリンク（HDMI）Ver.2/ ビエラリンク（HDMI）Ver.3 対応の当社製テレビ (ビエラ）との組み合わせのみ）

   - テレビによって、操作は異なります。
   - モード切り換え時、本システムの表示部にサウンドモード名が表示されます。
   - 入力信号が 48 kHz を超えるサンプリング周波数の PCM のときは、この機能は使えません。

   さらに、番組情報などに応じて、自動的にサウンドを切り換えることができます（オートサウンド連携）。
   （ビエラリンク（HDMI）Ver.3 の当社製テレビ (ビエラ）とレコーダー（ディーガ）の組み合わせのみ）
   - テレビによって、操作は異なります。
   - 自動でサウンドを切り換えたくない場合は、テレビのサウンドモードを“オート”以外に設定してください。
   - 番組情報などを受け取り、サウンドが変更された場合は、本システムの表示部にサウンドモード名が表示されます。
   - すべての番組情報などには対応していません。対応していない場合には、スタンダードモード（ドルビーバーチャルスピーカー再生）になります。

   以下のような場合に働きます。
   ■テレビ（ビエラ）やケーブルテレビで：デジタル放送の番組を視聴中
   ■レコーダー（ディーガ）で：
   デジタル放送の番組を視聴中、または再生中
   DVD、CD、SD などを再生中
   - 録画したディスクによっては、対応していない場合があります。
   - 自動的にサウンドを切り換えるかどうかの設定ができます。
   - 詳しくは、レコーダー（ディーガ）の取扱説明書をご覧ください。

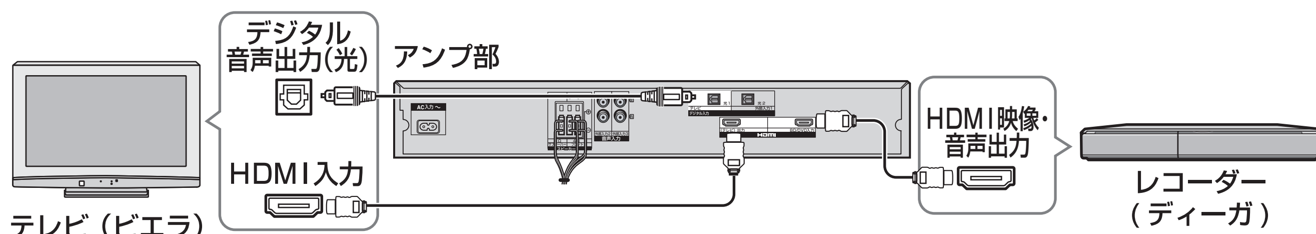
お知らせ
- テレビ（ビエラ）のリモコンで、チャンネル選択などの操作を行うと、本システムの入力が“***TV***”に切り換わります。
- BD/DVD 入力端子に接続したレコーダー（ディーガ）を再生すると、本システムの入力が自動で“***BD/DVD***”に切り換わります。
- 上記以外の操作をする場合は、本システムのリモコンを使用してください。

接続

本システムとビエラリンク（HDMI）に対応した当社製テレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）をHDMI ケーブルで接続します。

お知らせ

- HDMI ロゴ（➔ 表紙）のある「High Speed HDMI™ ケーブル」をお買い求めください。
- 1080p 出力時は、5.0 m 以下の HDMI ケーブルをおすすめします。
- 当社製 HDMI ケーブルを推奨します。（HDMI 規格に準拠していないケーブルでは動作しません。）
  品番 : RP-CDHG10 (1.0 m)、RP-CDHG15 (1.5 m)、RP-CDHG20 (2.0 m)、RP-CDHG30 (3.0 m) など
- HDMI ケーブルの接続だけでは、本システムでテレビ（ビエラ）の音声を楽しむことができません。本システムでテレビ（ビエラ）の音声を楽しむ場合は、本システムとテレビ（ビエラ）を光デジタルケーブルで接続してください。



設定

準備：本システムの「ビエラリンク（HDMI）を使わない設定にする」（➔ 23 ページ）で“***ON***”になっているか確認してください。
テレビ(ビエラ)のメニュー操作でビエラリンク(HDMI)機能を働かせる設定にしてください。テレビ(ビエラ）の音声をサラウンドで楽しむときは、テレビ（ビエラ）のデジタル音声出力を“自動”に設定してください。

1. テレビ（ビエラ）以外のすべての機器の電源を入れる。
2. テレビ（ビエラ）の電源を入れる。
3. テレビ（ビエラ）の入力を、本システムを接続した HDMI 端子に切り換える。
4. 本システムの入力を“***BD/DVD***”に切り換えて、レコーダー（ディーガ）の画像が正しく映るかを確認する。

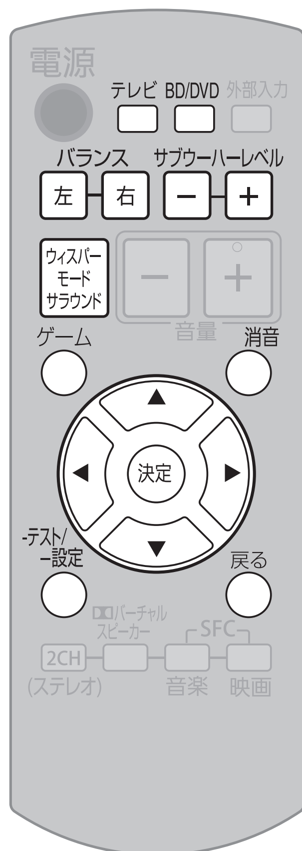
お知らせ

この設定は以下のような場合に行ってください。
- お買い上げの直後、初めて本システムを接続したとき
- 機器を追加、または接続し直したとき
- 各設定を変更したとき

この機能を使わない設定にする

「ビエラリンク（HDMI）を使わない設定にする」（➔ 23 ページ）で“***OFF***”を選んでください。

便利な機能・設定



ウィスパーモードサラウンドを使用する

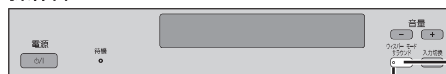
サラウンド再生時のみ効果がある機能です。サラウンド再生時に小音量にしても臨場感のある効果が楽しめます。

[ウィスパーモードサラウンド] 押す　W.S. ON

■ **解除する**　もう一度押す
解除すると、“***W.S.OFF***”と表示されます。

本体でも設定できます

操作部



● この機能が「入」のときは、操作部の [ウィスパーモードサラウンド] ランプが点灯します。

お知らせ

ウィスパーモードサラウンドは、ドルビーバーチャルスピーカーが「切」の場合は効果がありません。
この機能が「入」の場合にドルビーバーチャルスピーカーを「切」にしたときは、[ウィスパーモードサラウンド] ランプが消灯して、一時的に機能が「切」の状態になります。

ゲームサウンドを使用する

迫力のあるサウンドでゲームが楽しめます。

[ゲーム] 押す　GAME

● SFC の“***GAME***”モード（➜ 19 ページ）が選択されます。

■ **解除する**　もう一度押す
解除すると、SFC の効果自体も解除されます。

一時的に音を消す

機能が働いている間、表示部に“***MUTING IS ON***”とくり返し表示（スクロール）されます。



押す　MUTING IS ON

■ **解除する**　もう一度押す

● 電源を切ると解除されます。
● 音量を調整すると解除されます。

サブウーハーの音量をお好みに応じて調整する

再生する信号によっては、サブウーハーの音量が、フロントスピーカーの音量とバランスが合わないと感じることがあります。そのような場合は、再生中でもサブウーハーの音量調整ができます。



押して、サブウーハーの音量を調整する

SUBW 15

調整範囲：***OFF***、***MIN***、***1*** ～ ***19***、***MAX***

お知らせ

- 左右フロントスピーカーの音量バランス調整は、「音量バランスの調整をする」（➜ 23 ページ）をご覧ください。
- サブウーハーの調整で ***“OFF”*** を選ぶと、サブウーハーから音が出ません。
- 音がひずむ場合は、レベルを下げてください。
- SFC は各モードごとに調整できます。（➜ 19 ページ）

音量バランスの調整をする

左右フロントスピーカーの出力バランスを調整できます。
L：フロントスピーカー（左）
R：フロントスピーカー（右）



押して調整する


バーの表示は目安です。


押して決定

音質の調整をする

BASS（低音）とTREBLE（高音）を調整できます。

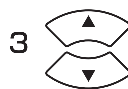
アナログ、PCMの2チャンネル信号をステレオ再生するときのみ有効です。
<u>それ以外の条件では、この設定は表示されません。必ず、上記の条件にしてから、設定してください。</u>

1  約2秒間押したままにする

2  押して“***BASS***”または“***TREBLE***”を選び   押して決定

※***BASS***、※***TREBLE***、***HDMI***、***SOUND DLY***、***DUAL PRG***、***DRCOMP***、***ATTENUATOR***、***REMOTE***、***INPUT MODE***、***RESET***、***EXIT***
※調整が有効な場合のみ表示されます。

● “***EXIT***”を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3  押して調整する   押して決定

調整範囲：***–6***～***+6***
初期設定：***0***

4  押して“***EXIT***”を選び   押して決定

■ 設定動作中：一つ前に戻る／キャンセルする  押す

本システムの電源「切」時の消費電力を下げる（省待機電力モード）

このモードではHDMI接続をしている場合、スタンバイスルー機能（➜ 11、30ページ）は働きません。
電源「切」時のビエラリンク（HDMI）（➜ 20、21ページ）は無効になります。

1  約2秒間押したままにする

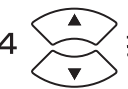
2  押して“***HDMI***”を選び   押して決定

※***BASS***、※***TREBLE***、***HDMI***、***SOUND DLY***、***DUAL PRG***、***DRCOMP***、***ATTENUATOR***、***REMOTE***、***INPUT MODE***、***RESET***、***EXIT***
※調整が有効な場合のみ表示されます。

● “***EXIT***”を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3  押して“***STNBY***”を選び   押して決定

STNBY、***CTRL***

4  押して“***OFF***”を選び   押して決定

OFF：電源「切」時の消費電力を下げる（約0.2 W）
ON：電源「切」時に「スタンバイスルー」を有効にする（通常の消費電力）

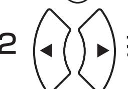
初期設定：***ON***

5  数回押して“***EXIT***”を選び   押して決定

■ 設定動作中：一つ前に戻る／キャンセルする  押す

ビエラリンク（HDMI）を使わない設定にする

1  約2秒間押したままにする

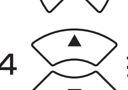
2  押して“***HDMI***”を選び   押して決定

※***BASS***、※***TREBLE***、***HDMI***、***SOUND DLY***、***DUAL PRG***、***DRCOMP***、***ATTENUATOR***、***REMOTE***、***INPUT MODE***、***RESET***、***EXIT***
※調整が有効な場合のみ表示されます。

● “***EXIT***”を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3  押して“***CTRL***”を選び   押して決定

STNBY、***CTRL***

4  押して“***OFF***”を選び   押して決定

OFF：連動しないとき、***ON***：連動するとき

初期設定：***ON***

5  数回押して“***EXIT***”を選び   押して決定

■ 設定動作中：一つ前に戻る／キャンセルする  押す

音声を遅らせて映像とのズレを補正する

映像が音声よりも遅れている場合に、音声を遅らせて、映像に近づけます。

1 -テスト/-設定 約2秒間押したままにする

2 押して "SOUND DLY" を選び → 決定 押して決定

※BASS、※TREBLE、HDMI、SOUND DLY、DUAL PRG、DRCOMP、ATTENUATOR、REMOTE、INPUT MODE、RESET、EXIT

※調整が有効な場合のみ表示されます。

● "EXIT" を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 押して設定を選び → 決定 押して決定

AUTO、OFF、10、20、30、40　初期設定：AUTO

4 戻る 押して "EXIT" を選び → 決定 押して決定

■ 設定動作中：一つ前に戻る／キャンセルする 戻る 押す

● 音声を遅らせる必要がない場合は、"OFF" を選んでください。
● "AUTO" はビエラリンク（HDMI）Ver.3 に対応の当社製テレビ（ビエラ）を接続している場合のみ有効です。（オートリップシンク）
● ビエラリンク（HDMI）Ver.3 に対応していない当社製テレビ（ビエラ）、もしくは当社製以外のテレビを接続している場合で "AUTO" にしているときは、"40"（msec）として設定されます。

二重音声を切り換える

AAC、ドルビーデジタル信号の二重音声を切り換えることができます。

1 -テスト/-設定 約2秒間押したままにする

2 押して "DUAL PRG" を選び → 決定 押して決定

※BASS、※TREBLE、HDMI、SOUND DLY、DUAL PRG、DRCOMP、ATTENUATOR、REMOTE、INPUT MODE、RESET、EXIT

※調整が有効な場合のみ表示されます。

● "EXIT" を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 押して音声を選び → 決定 押して決定

MAIN（主音声）、SUB（副音声）、M+S（主＋副音声）　初期設定：MAIN

4 戻る 押して "EXIT" を選び → 決定 押して決定

■ 設定動作中：一つ前に戻る／キャンセルする 戻る 押す

小音量でも聞きやすくする

ドルビーデジタルに対するダイナミックレンジ圧縮機能です。

音声信号の最大音と最小音の差を圧縮し、音場に影響することなく小音量でもセリフを聞きやすくします。
深夜など大きな音を出せない場合に便利です。

1 -テスト/-設定 約2秒間押したままにする

2 押して "DRCOMP" を選び → 決定 押して決定

※BASS、※TREBLE、HDMI、SOUND DLY、DUAL PRG、DRCOMP、ATTENUATOR、REMOTE、INPUT MODE、RESET、EXIT

※調整が有効な場合のみ表示されます。

● "EXIT" を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 押して設定を選び → 決定 押して決定

OFF：通常の再生　STANDARD：音源に合わせた最適な再生
MAX：常に最大圧縮

初期設定：OFF

4 戻る 押して "EXIT" を選び → 決定 押して決定

■ 設定動作中：一つ前に戻る／キャンセルする 戻る 押す

アッテネーターを切り換える

アナログ入力で再生中、音が大きな時にひずんだように聞こえる場合は“ON”にしてください。

1 [テスト/設定] 約2秒間押したままにする

2 [◀][▶] 押して“ATTENUATOR”を選び　ATTENUATOR　➡ [決定] 押して決定

※BASS、※TREBLE、HDMI、SOUND DLY、DUAL PRG、DRCOMP、ATTENUATOR、REMOTE、INPUT MODE、RESET、EXIT

※調整が有効な場合のみ表示されます。

● “EXIT”を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 [▲][▼] 押して“ON”を選び　ON　➡ [決定] 押して決定

ON（入）、OFF（切）　初期設定：OFF

4 [戻る] 押して“EXIT”を選び　EXIT　➡ [決定] 押して決定

■ 設定動作中：一つ前に戻る／キャンセルする [戻る] 押す

入力信号の判別方法を切り換える

“AUTO”（購入時の設定）ではほとんどの場合問題なく再生できますが、以下のような場合には、入力信号の判別方法を切り換えてください。

- CDを再生して、曲の始まりが途切れる場合は、“PCM”（PCM FIX）に設定してください。
- DTS信号を再生しても、信号が判別されない場合は、“DTS”（DTS FIX）に設定してください。

ノイズが発生する場合は、“AUTO”に戻してください。

1 [テスト/設定] 約2秒間押したままにする

2 [◀][▶] 押して“INPUT MODE”を選び　INPUT MODE　➡ [決定] 押して決定

※BASS、※TREBLE、HDMI、SOUND DLY、DUAL PRG、DRCOMP、ATTENUATOR、REMOTE、INPUT MODE、RESET、EXIT

※調整が有効な場合のみ表示されます。

● “EXIT”を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 [◀][▶] 押して入力を選び　TV　AUTO　➡ [決定] 押して決定

TV、DVD、AUX1

4 [▲][▼] 押して入力信号の判別方法を選び　TV　AUTO　➡ [決定] 押して決定

AUTO：自動判別
PCM：PCM（音楽CDなど）のデジタルに固定
DTS：DTSのデジタルに固定

初期設定：AUTO

■手順3と4を繰り返し、設定を変更

5 [戻る] 数回押して“EXIT”を選び　EXIT　➡ [決定] 押して決定

■ 設定動作中：一つ前に戻る／キャンセルする [戻る] 押す

購入時の設定に戻す（リセット）

本システムの設定を購入時の状態に戻します。

1 [テスト/設定] 約2秒間押したままにする

2 [◀][▶] 押して“RESET”を選び　RESET　➡ [決定] 押して決定

※BASS、※TREBLE、HDMI、SOUND DLY、DUAL PRG、DRCOMP、ATTENUATOR、REMOTE、INPUT MODE、RESET、EXIT

※調整が有効な場合のみ表示されます。

● “EXIT”を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 [▲][▼] 押して“YES”を選び　RESET YES　➡ [決定] 押して決定

YES、NO

- “YES”を選ぶと、すべての設定がリセットされ、自動的に入力が“BD/DVD”になります。
- “NO”を選ぶと、手順2に戻ります。設定モードを終了させるには、[戻る]を押して“EXIT”を表示させ、[決定]を押してください。

便利な機能・設定（つづき）

他の当社製機器（ミニコンや AV アンプなど）が動作する場合

本システムのリモコンを使用すると他の機器が動作することがあります。その場合は、本システムのリモコンコードを“***REMOTE 1***”に切り換えてください。下記の操作で、**本体とリモコンのコードを同じ番号に設定します**。

本体側を設定する

1 [テスト/設定] 約 2 秒間押したままにする

2 [◄][►] 押して“***REMOTE***”を選び　REMOTE　→　[決定] 押して決定

※***BASS***、※***TREBLE***、***HDMI***、***SOUND DLY***、***DUAL PRG***、***DRCOMP***、***ATTENUATOR***、***REMOTE***、***INPUT MODE***、***RESET***、***EXIT***

※調整が有効な場合のみ表示されます。

● “***EXIT***”を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 [▲][▼] 押してリモコンコード番号を選び　REMOTE 1　→　[決定] 押して決定

1、***2***　初期設定：***2***

● リモコン側の設定を変更するまでは、設定モードを終了することはできません。そのまま、手順 4 に進んでください。

リモコン側を設定する

4 [決定] 押したまま [テレビ] または [BD/DVD] を 2 秒以上押したままにする

・リモコン側のリモコンコードを“1”に設定するには

[決定] 押したまま [テレビ] を 2 秒以上押したままにする

・リモコン側のリモコンコードを“2”に設定するには（初期設定）

[決定] 押したまま [BD/DVD] を 2 秒以上押したままにする

● 手順 3 で選んだコード番号と同じ番号を選んでください。

☞ 本体側とリモコン側で違うコードが設定されている場合には、“***U30 REM2***”または“***U30 REM1***”のエラー表示が出ます。

5 [戻る] 押して、“***EXIT***”を選び、[決定]を押して設定を終える

Q&A（よくあるご質問）

Q（質問）	A（回答）
マイクを接続したい。	本システムには接続できません。
長時間使用すると、本システムが熱くなるが、大丈夫か。	大丈夫です。ただし、後面の通気孔を物でふさぐなど、放熱を妨げることはしないでください。
デジタル接続で、DVD オーディオを再生しても音が出ない。	本システムは CPPM に対応していますので、HDMI ケーブルで接続すると、DVD オーディオの音声を楽しむことができます。（➜ 11 ページ）
サラウンドスピーカーを追加して接続できるか。	本システムではできません。
他のアンプやスピーカーを接続できるか。	本システムではできません。
引っ越しするのだが、そのまま使えるか。	東日本、西日本に関係なく使えます。

こんな表示が出たら

表示	調べるところ・原因・対策	ページ
U30 REM2 U30 REM1	● リモコンコードを設定し、本体とリモコンのコードを合わせてください。 “***U30 REM2***”が表示された場合、「他の当社製機器（ミニコンや AV アンプなど）が動作する場合」の手順 **4** でリモコン側の設定を“***2***”にしてください。 “***U30 REM1***”が表示された場合も、同じように手順 **4** で、リモコン側の設定を“***1***”にしてください。	26
U701	● HDMI 接続した機器が、本システムの著作権保護に対応していません。	–
U704	● HDMI 接続で、本システムが対応していない映像フォーマットを受信しました。接続した機器の設定を確認してください。	–
U703	● HDMI 接続で異常があります。以下の処置をしてください。 それでも直らないときは、販売店にご相談ください。 －接続した機器の電源を「切 / 入」してください。 － HDMI ケーブルを抜き差ししてください。 －本システム出力側の接続台数が 2 台を超えないようにしてください。	–
NOT POSSIBLE FOR THIS INPUT SOURCE （スクロール表示）	● 二重音声には、ドルビーバーチャルスピーカー、SFC、ドルビープロロジックⅡは使用できません。	–
NOT POSSIBLE FOR THIS PCM SOURCE （スクロール表示）	● サンプリング周波数が 48 kHz を超える PCM 信号のときは、ドルビーバーチャルスピーカー、SFC、ドルビープロロジックⅡは使用できません。 ● マルチチャンネル LPCM 信号には、SFC は使用できません。	19 19

仕様

■ アンプ部

実用最大出力
- フロント（L/R） 25 W + 25 W（4 Ω、JEITA）
- サブウーハー 30 W（100 Hz、3 Ω、JEITA）

負荷インピーダンス
- フロント（L/R） 4 Ω
- サブウーハー 3 Ω

入力感度 / 入力インピーダンス
- 外部入力 2、外部入力 3 450 mV/47 kΩ

信号対雑音比（S/N 比）
- BD/DVD、テレビ、外部入力 1 80 dB

トーンコントロール特性
- 低音 50 Hz、+6 ～ − 6 dB
- 高音 20 kHz、+6 ～ − 6 dB

デジタル入力	（光）	2
HDMI	（入力）	1
	（出力）	1

本システムは、ビエラリンク Ver.3 に対応しています。

■ ラックシステム部

寸法（幅×高さ×奥行き） 790 mm × 450 mm × 360 mm
質量 約 22.0 kg
耐荷重量 30 kg

■ スピーカーシステム部

フロントスピーカー部（L/R）
1 ウェイ 1 スピーカーシステム（バスレフ型）
6.5 cm コーン型フルレンジ× 2

サブウーハー部
1 ウェイ 1 スピーカーシステム（バスレフ型）
13 cm コーン型ウーハー× 1

■ 総合

電源 AC 100 V、50/60 Hz
消費電力（本体） 43 W

電源スタンバイ時の消費電力	約 0.6 W
省待機電力モード時の消費電力	約 0.2 W

■ 動作使用条件

周囲温度 0 ℃～ 40 ℃
相対湿度 20 % ～ 80 %（結露なきこと）

注）
この仕様は、性能向上のため変更することがあります。

故障かな !?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。
なお、これらの処置をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

	こんなときは	ここを処置・確認してください	ページ
共通	電源が入らない。	● 電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、確認してください。	15
	機器の再生を始めても音や映像が出ない。	● 入力信号を正しく選択してください。 ● 消音を解除してください。 ● 本システムで再生できるデジタル信号か確認してください。 光デジタルケーブルで接続した場合、サンプリング周波数が 96 kHz を超える PCM 信号は、正常に再生されません。 ● 機器が正しく接続されているか確認してください。 ●「入力信号の判別方法を切り換える」で“***AUTO***”に設定してください。 ● 本システムの電源を「切 / 入」してください。 ● スピーカーのテスト信号、スピーカーの調整を行ってください。 ● 後面（アンプ部）のスピーカー端子コネクターがはずれていないか確認してください。 ● 接続経路に問題がない場合、ケーブルの異常かもしれません。お手持ちの他のケーブルで、再度接続を試みてください。	17、18 22 29 11～15 25 — 16、22、23 5 —
	リモコンが働かない。	● 電池が消耗している場合は電池を交換してください。	6
	電源を切っても [待機] ランプが点灯する。	● コンセントに電源コードを接続すると、電源「切」のときに [待機] ランプが点灯します。なお、電源「入」にすると消灯します。	15
	DVD プレーヤーにマイクを接続してカラオケを楽しもうとしたが、マイクの音が出ない。	● DVD プレーヤーと本システムをデジタル接続している場合はマイクの音は出力されません。外部入力 2 または外部入力 3 にアナログ接続してください。	12、15
	DTS の音声が出ない。 音声は出るが DTS 表示が点灯しない。	● ブルーレイディスクレコーダー、ブルーレイディスクプレーヤー、DVD レコーダー、DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定が、ビットストリームであることを確かめてください。 ●「入力信号の判別方法を切り換える」で“***DTS***”に設定してください。	— 25
	DVD オーディオを再生しても音が出ない。	● 光デジタルケーブルで接続した場合、著作権保護の理由などで音声が出ないディスクがあります。また、48 kHz を超えるサンプリング周波数の音声も再生されないことがあります。	—
	音が出なくなった。 （“***F61***”が約 1 秒間表示される。） 本機は異常を検出すると、保護回路が働いて、電源を自動的に切ります。	● アンプの出力異常です。 ● 著しい大音量で聞いていませんか。 ● 異常に暑い場所で使用していませんか。 ● カーテンや異物により、通気孔をふさいでいませんか。 ⇒ 原因を解消して、しばらく待ってから再び電源を入れてください。 （保護回路の動作が解除されます。） （それでも同じ現象が起こる場合は販売店にご相談ください。）	— — — —
	“***F70***□□□□”が表示される。 （□には“***DSP***”または“***HDMI***”が表示されます。）	● 電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	—
	“***F76***”が表示される。 （表示したあと、電源が切れます。）	● 電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	—
音場効果	サラウンドで音が聞こえない。	● ドルビーバーチャルスピーカー、SFC を選択してください。 ●（テレビ音声が聞こえない場合）本システムとテレビを光デジタルケーブルで接続できているか確認してください。	19 11、12、14
	ドルビーバーチャルスピーカー、SFC が使えない。	● サンプリング周波数が 48 kHz を超える PCM 信号のときは使用できません。外部入力 2 または外部入力 3 にアナログ接続してください。 ● デジタル放送の AAC 信号とドルビーデジタルの二重音声には使用できません。	12、15 —
	デジタル放送で二重音声放送の切り換えができない。	● デジタルチューナーやテレビの音声出力を AAC に切り換えてください。	—
	テレビの音声が音切れする。	● 音切れする場合、テレビ側の音声出力の設定を AAC にしてください。	—
HDMI	HDMI 接続で、始めの数秒間の音声が再生されない。	DVD をチャプターから再生した場合に、起こることがあります。以下の処置をしてください。 ①ブルーレイディスクレコーダー、ブルーレイディスクプレーヤー、DVD レコーダー、DVD プレーヤーなどのデジタル音声出力の設定をビットストリーム設定から PCM 設定にしてください。 ②「入力信号の判別方法を切り換える」で“***PCM***”に設定してください。	— 25
	正常に動作しない。	● HDMI の入力端子と出力端子を間違えて接続すると、正常に動作しません。接続し直すときは、一度電源を切り、電源プラグを抜いてから接続してください。	11

こんなときは		ここを処置・確認してください	ページ
HDMI	ビエラリンク（HDMI）が働かなくなった。	●「ビエラリンク（HDMI）を使わない設定にする」で“***ON*** ”（連動するとき）に設定しているか確認してください。 “***OFF***”になっている場合は、“***ON***”に変更してください。	23
		● 省待機電力モードにしている場合、本システムの電源「切」時には、ビエラリンク（HDMI）が働きません。「本システムの電源「切」時の消費電力を下げる（省待機電力モード）」で“***ON***”（通常の消費電力）に変更してください。	23
		● 接続した機器側のビエラリンク（HDMI）の設定を確認してください。	–
		● HDMI 機器の接続を変更したとき、停電やコンセントの抜き差しをしたときなどにビエラリンク（HDMI）が動作しなくなる場合があります。このときは、以下の操作をしてください。 ・HDMI ケーブルで接続したすべての機器の電源を入れた状態で、テレビ（ビエラ）の電源を入れ直す。 ・テレビ（ビエラ）の「ビエラリンク（HDMI）制御（HDMI 機器制御）」の設定を「しない」に変更し、再度「する」に設定する。（詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書をご覧ください。） ・テレビ（ビエラ）と本システムを HDMI ケーブルで接続して、テレビ（ビエラ）の電源を入れ、そのまま本システムの電源プラグを一度抜いてから接続し直す。	–

本システムで再生できるデジタル信号

AAC	ドルビーデジタル	DTS	PCM（2 チャンネル）	マルチチャンネル LPCM（リニア PCM）
BS 放送など	ブルーレイディスクや DVD など	ブルーレイディスクや DVD など	CD や DVD オーディオなど （サンプリング周波数が 96 kHz までの信号）	ブルーレイディスクや DVD オーディオなど （サンプリング周波数が 48 kHz までの信号）

お知らせ

● ＨＤＭＩ接続している場合、４８ kHz を超えるマルチチャンネルＬＰＣＭ信号や９６ kHz を超えるＰＣＭ信号を再生することができます。（これらの周波数を超える場合、いずれも再生機器側でダウンサンプリングして４８ kHz として再生されます。ただし、ディスクによっては再生できないものもあります。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。）
● 各信号について詳しくは「用語解説」（➜ 30 ページ）をご覧ください。

お手入れ

電源プラグをコンセントから抜き、乾いた柔らかい布でふいてください。

● 汚れがひどいときは、水にひたした布をよく絞ってから汚れをふき取り、そのあと、乾いた布でふいてください。
● ベンジン、シンナー、アルコール、台所洗剤などの溶剤は、外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがありますので使用しないでください。
● 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

音のエチケット
シンボルマーク

用語解説

アナログ
一般的な再生機器に装備されている左（L）/ 右（R）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

サラウンド信号
フロント、センター、サラウンドチャンネルで構成された音声信号です。本システムでは、サラウンド信号は自動的にドルビーバーチャルスピーカーで再生します。

サンプリング周波数
サンプリングとは、音の波(アナログ信号)を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化（デジタル信号化）することです。1秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、回数が多ければ多いほど原音に近い音を再現でき、高音質になります。

スタンバイスルー機能
本システムとテレビ、レコーダーを HDMI ケーブルで接続すると、本システムの電源を切っても、レコーダーからの映像 / 音声信号が本システムを通過して、テレビへ伝送される機能です。
深夜の視聴など、テレビのスピーカーだけで楽しみたいときに便利です。
x.v. Color で記録された映像にも対応しています。

ダイナミックレンジ
機器が出すノイズにうもれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

ダウンサンプリング
ある周波数でサンプリングされた信号をより低い周波数で再サンプリングすることです。

デコーダー、デコード
DVD などに符号化して記録した音声データを通常の音声信号に戻す装置をデコーダーといいます。また、この処理をデコードといいます。

デジタル
デジタル端子は一般的に、ブルーレイディスクレコーダー、ブルーレイディスクプレーヤー、DVD レコーダー、DVD プレーヤー、CD プレーヤーなどに装備されています。ドルビーデジタルや DTS などのデジタル音声を聞くときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

オプティカル
光（OPTICAL）デジタル
DVD や CD などのデジタル信号を入出力するための信号で光デジタルケーブルを使用して接続します。アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器に光（OPTICAL）端子がある場合に使用できます。

AAC 信号
BS デジタル放送や地上波デジタル放送に採用されている圧縮音声です。サラウンド音声を再生できます。

CPPM
コンテント プロテクション フォー プリレコーディッド メディア
Content Protection for Prerecorded Media の略。
DVD オーディオのファイルコピーを防止する著作権保護技術です。

ドルビー デジタル
Dolby Digital
ドルビー社の開発したデジタル音声の圧縮方式です。ステレオ（2 チャンネル）はもちろん、サラウンド音声にも対応しており、大量の音声データを効率よくディスクに収めることができます。

ドルビー プロ ロジック
Dolby Pro Logic Ⅱ
ドルビーサラウンドだけでなく、2 チャンネル で記録されたあらゆる信号を、よりリアルな音場で 5.1 チャンネル 音声に変換します。従来の 2 チャンネル 音声（モノラル音声は除く）だけで記録された古い映画も、5.1 チャンネル の迫力ある音声で楽しめます。本システムでは、ビデオや CD などのステレオ信号にサラウンド効果をつけるときに使用されます。

ドルビー バーチャル スピーカー
Dolby Virtual Speaker
フロントスピーカー、サブウーハーだけで、サラウンドの効果を得られるシステムです。単なる仮想サラウンドと異なり、5.1 チャンネルにおける理想のスピーカー配置と人の聴覚との関係を表現します。

ディーティーエス デジタル シアター システム
DTS（Digital Theater Systems)
映画館で多く採用されているサラウンドシステムです。チャンネル間のセパレーションが良く、リアルな音響効果が得られます。

HDMI
ハイ デフィニション マルチメディア インターフェイス
HDMI は High-Definition Multimedia Interface の略です。
1本のケーブルで映像と音声のデジタル信号が伝送できます。
また、コントロール信号も伝送できます。

エルピーシーエム ピーシーエム
LPCM（リニア PCM）
PCM 方式の一種で、圧縮せずにデジタルに置き換えられた音声信号です。音楽 CD などで使われている方式です。また、ブルーレイディスクや DVD オーディオなどでは、マルチチャンネルの LPCM が使われており、より高音質な再生が可能です。本システムでは、7.1 チャンネルまでの LPCM を入力することができます。

ピーシーエム パルス コード モジュレーション
PCM（Pulse Code Modulation)
アナログ音声をデジタル音声に変換する方式の 1 つです。

カラー
x.v.Color
広色域色空間の国際標準規格「xvYCC」に準拠した製品の名称です。本システムは、x.v.Color に対応しています。

1080p
デジタルハイビジョン映像の 1 つです。
実際の画面を構成する有効走査線数は 1080 本で、細部まできれいに表現されます。また、上から順に走査するプログレッシブ方式で、ちらつきの少ない画像になります。本システムは、1080p に対応しています。

5.1 チャンネル サラウンド
「モノラル」は 1 つのスピーカーで、「ステレオ」は 2 つのスピーカーで音声を再生しますが、5.1 チャンネルサラウンドでは 5 つのスピーカーと 1 つのサブウーハーが使われます。
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー 1 つ、フロントスピーカー 2 つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー 2 つで 5 チャンネル、サブウーハーは他のスピーカーよりも再生できる音域が狭いため 0.1 とし、すべてを使って再生することを 5.1 チャンネルサラウンド再生と言います。
本システムでは、ドルビーバーチャルスピーカーで、5.1 チャンネルで聞いているような音響効果を楽しむことができます。

安全上のご注意（必ずお守りください）

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠ **警告**	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠ **注意**	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）

⊘	してはいけない内容です。
❗	実行しなければならない内容です。
⚠	気をつけていただく内容です。

⚠ 警告

電源コード・プラグを破損するようなことはしない

（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない）

傷んだまま使用すると、火災・感電・ショートの原因になります。

- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

テレビはラック天板の中央に設置する

テレビスタンドは（回転式のテレビスタンドの場合は、回転しても）前面パネル部にかからないように、またラック天板の後部よりはみ出さないように設置し、回転式の場合は回転範囲内に手や物を置かない）

落下や指をはさんでけがの原因となることがあります。

- 特にお子様にはご注意ください。

雷が鳴ったら、本機や電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因になります。

分解、改造をしない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。

- 内部の点検や修理は、販売店にご依頼ください。

内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない

ショートや発熱により、火災・感電の原因になります。

- 機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流 100 V 以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

電池は誤った使いかたをしない

- 乾電池は充電しない
- 加熱・分解したり、水などの液体や火の中へ入れたりしない
- ⊕ と ⊖ を針金などで接続しない
- 金属製のネックレスやヘアピンなどといっしょに保管しない
- ⊕ と ⊖ を逆に入れない
- 新・旧電池や違う種類の電池をいっしょに使わない
- 被覆のはがれた電池は使わない
- 乾電池の代用として充電式電池を使わない

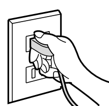
取り扱いを誤ると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になります。

- 電池には安全のために被覆をかぶせています。これをはがすとショートの原因になりますので、絶対にはがさないでください。

安全上のご注意（つづき）

⚠ 警告

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

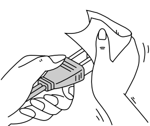
- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは、使わないでください。

使い切った電池は、すぐにリモコンから取り出す



そのまま機器の中に放置すると、電池の液もれや、発熱・破裂の原因になります。

電源プラグのほこり等は定期的にとる

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

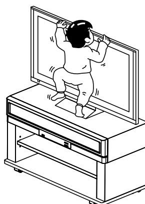
- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

電池の液がもれたときは、素手で液をさわらず、以下の処置をする



- 液が目に入ったときは、失明の恐れがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと医師にご相談ください。
- 液が身体や衣服に付いたときは、皮膚の炎症やけがの原因になるので、きれいな水で十分に洗い流したあと、医師にご相談ください。

テレビは転倒防止の処置をする

地震やお子様がよじ登ったりすると、転倒しけがの原因となることがあります。

- 安全のため、必ずキャスター座を取り付け、転倒防止バンドでテレビとラックを固定してください。
- テレビは、壁にも固定してください。

異常があったときは、電源プラグを抜く

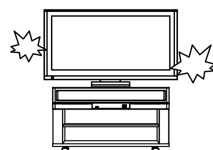


- **内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき**
- **落下などで外装ケースが破損したとき**
- **煙や異臭、異音が出たとき**

そのまま使うと、火災・感電の原因になります。

- 販売店にご相談ください。

設置したテレビがはみ出した場合、当たらないように注意する

倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。

⚠ 注意

ラックの設置時には、指をはさまないように注意する



けがの原因になることがあります。

油煙や湯気の当たるところ、湿気やほこりの多いところに置かない



電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災・感電の原因になることがあります。

不安定な場所に置かない



- **高い場所、水平以外の場所、振動や衝撃の起こる場所、本システムよりも小さな物の上に置かない**

倒れたり落下すると、けがや製品の故障の原因になることがあります。

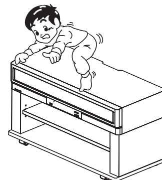
コードを接続した状態で移動しない



接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

また、引っかかって、けがの原因になることがあります。

ラックの上に乗ったり、座ったりしない

落ちたりして、けがの原因になることがあります。

- 特にお子様にはご注意ください。

ラックの上に時計等の磁気の影響を受けやすいものを置かない



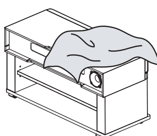
正常に動作しなくなる場合があります。

本システムのイラスト（姿図）は、イメージイラストであり、ご購入のものとは形状が多少異なる場合がありますが御了承ください。

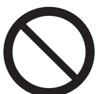
⚠ 注意

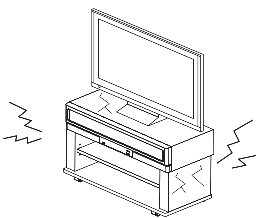
放熱を妨げない


内部に熱がこもると、機器のケースが変形したり、火災の原因になることがあります。
- 後面の通気孔をふさがないでください。

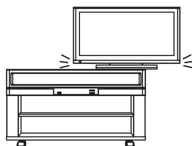


万一、ラックに変形・ひび割れ・割れが起こった場合は、使用しない


そのまま使用すると倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。
- すぐに販売店へご連絡ください。



テレビは、片寄った載せかたをしない



倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。

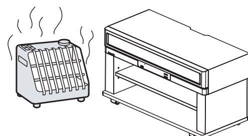
ラックの移動や設置時に、ラック下部の隙間内に足先を入れない


けがの原因となることがあります。

付属の棚板保持部品・転倒防止ねじ・本体セット足は、乳幼児の手の届くところに置かない


誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。
- 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

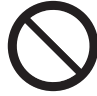
異常に温度が高くなるところに置かない



外装ケースや内部部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。
- 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

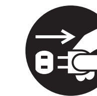
天板・棚板・底板には指定した質量以上の機器を載せない


ラックに載せられる質量を超えて長期間使用されますと破損してけがの原因となることがあります。
- 天板は 30 kg、棚板、底板共に 12 kg を超える機器を載せないでください。
- 天板には、テレビ以外の物を置かないでください。

キャスター（車）には注油しない


キャスター（車）のひび割れ、破損の原因となり、倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。

長期間使わないときや、お手入れのときは、電源プラグを抜く


電源プラグを抜く

通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、ろう電などにより、火災の原因になることがあります。

ぐらつきが発生した場合は、本体固定ねじ（4 本）を締めなおす


ぐらつきがあると、テレビが倒れたり落下して、けがの原因になることがあります。

キャスター付きラックを移動するときは、キャスター座を取り外す


キャスター座を取り付けたまま移動すると、倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。
- 段差のあるところやじゅうたんなどの柔らかいところでは、特にご注意ください。
- キャスター座の取り外しは、必ず本文の説明に従って行ってください。

設置や移動、またはキャスター座の取り付けは２人以上で行う


１人で無理に行うと、腰を痛めたり、けがの原因になることがあります。
- キャスター座の取り付けは、必ず本文の説明に従って行ってください。

ラックを搬送したり、キャスターを取り外してラックを移動するときは、必ず指定された部分を持って行う


指定された部分以外を持って移動すると、けがの原因になることがあります。
- 持ち方については、必ず本文の説明に従って行ってください。

スピーカーは内蔵のものを使用する


内蔵以外のスピーカーを接続すると、スピーカーが発熱し、火災の原因になることがあります。

長期間使わないときは、リモコンから電池を取り出す


液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は・・・

●修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
●使いかた・お買い物などのお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■ 保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保管してください。

保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

■ 補修用性能部品の保有期間 8年

当社は、このホームシアターオーディオシステムの補修用性能部品を、製造打ち切り後 8 年保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

28、29 ページの表に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。右記修理料金の仕組みをご参照のうえ、ご相談ください。

●修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
部品代は、修理に使用した部品および補助材料代です。
出張料は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

パナソニック株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、折り返し電話させていただくときのため、ナンバー・ディスプレイを採用しています。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容			
製品名	ホームシアターオーディオシステム	お買い上げ日	年　月　日
品　番	SC-HTR10	故障の状況	できるだけ具体的に

「よくあるご質問」「メールでのお問い合わせ」などはホームページをご活用ください。
http://panasonic.jp/support/

修理に関するご相談

パナソニック 修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号） 0570-087-087

• 呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
• 携帯電話・PHS・IP/光電話等、ナビダイヤルがご利用できない場合は、最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。
• 最寄りの修理ご相談窓口は、次ページをご覧ください。

使いかた・お買い物などのご相談

パナソニック お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時

電話 フリーダイヤル 0120-878-365（パナは 365日）
■携帯電話・PHSでのご利用は… 06-6907-1187
FAX フリーダイヤル 0120-878-236

Help desk for foreign residents in Japan
Tokyo (03) 3256 - 5444 **Osaka** (06) 6645 - 8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays /Sundays / national holidays)

※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

パナソニック

修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号）  **0570-087-087**

- 呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS・IP/光電話等、ナビダイヤルがご利用できない場合は、最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

- 地区・時間帯によって、集中修理ご相談窓口に転送させていただく場合がございます。

北海道地区

窓口	所在地	電話番号
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7	☎(011)894-1251
旭川	旭川市2条通16丁目1166	☎(0166)22-3011
帯広	帯広市西20条北2丁目23-3	☎(0155)33-8477
函館	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）	☎(0138)48-6631

東北地区

窓口	所在地	電話番号
青森	青森市大字浜田字豊田364	☎(017)775-0326
秋田	秋田市外旭川字小谷地3-1	☎(018)868-7008
岩手	盛岡市厨川5丁目1-43	☎(019)645-6130
宮城	仙台市宮城野区扇町7-4-18	☎(022)387-1117
山形	山形市平清水1丁目1-75	☎(023)641-8100
福島	郡山市亀田1丁目51-15	☎(024)991-9308

首都圏地区

窓口	所在地	電話番号
栃木	宇都宮市上戸祭3丁目3-19	☎(028)689-2555
群馬	前橋市箱田町325-1	☎(027)254-2075
茨城	つくば市筑穂3丁目15-3	☎(029)864-8756
埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2	☎(048)728-8960
千葉	千葉市中央区末広5丁目9-5	☎(043)208-6034
東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17	☎(03)5477-9780
山梨	甲府市宝1丁目4-13	☎(055)222-5822
神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16	☎(045)847-9720
新潟	新潟市東区東明1丁目8-14	☎(025)286-0180

中部地区

窓口	所在地	電話番号
石川	金沢市横川3丁目20	☎(076)280-6608
富山	富山市根塚町1丁目1-4	☎(076)424-2549
福井	福井市問屋町2丁目14	☎(0776)21-0622
長野	松本市寿北7丁目3-11	☎(0263)86-9209
静岡	静岡市葵区千代田7丁目7-5	☎(054)287-9000
愛知	名古屋市瑞穂区塩入町8-10	☎(052)819-0225
岐阜	岐阜市中鶉4丁目42	☎(058)278-6720
高山	高山市花岡町3丁目82	☎(0577)33-0613
三重	津市久居野村町字山神421	☎(059)254-5520

近畿地区

窓口	所在地	電話番号
滋賀	栗東市霊仙寺1丁目1-48	☎(077)582-5021
京都	京都市伏見区竹田中川原町71-4	☎(075)646-2123
大阪	大阪市城東区関目2丁目15-5	☎(06)6359-6225
奈良	大和郡山市筒井町800番地	☎(0743)59-2770
和歌山	和歌山市中島499-1	☎(073)475-2984
兵庫	神戸市須磨区弥栄台3丁目13-4	☎(078)796-3140

中国地区

窓口	所在地	電話番号
鳥取	鳥取市安長295-1	☎(0857)26-9695
米子	米子市米原4丁目2-33	☎(0859)34-2129
松江	松江市平成町182番地14	☎(0852)23-1128
出雲	出雲市渡橋町416	☎(0853)21-3133
浜田	浜田市下府町327-93	☎(0855)22-6629
岡山	岡山市田中138-110	☎(086)242-6236
広島	広島市西区南観音1丁目13-5	☎(082)295-5011
山口	山口市小郡下郷220-1	☎(083)973-2720

四国地区

窓口	所在地	電話番号
香川	高松市勅使町152-2	☎(087)868-6388
徳島	徳島市沖浜2丁目36	☎(088)624-0253
高知	高知市仲田町2-16	☎(088)834-3142
愛媛	愛媛県伊予郡砥部町八倉75-1	☎(089)905-7544

九州地区

窓口	所在地	電話番号
福岡	春日市春日公園3丁目48	☎(092)593-9036
佐賀	佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044	☎(0952)26-9151
長崎	長崎市東町1919-1	☎(095)830-1658
大分	大分市萩原4丁目8-35	☎(097)556-3815
宮崎	宮崎市本郷北方字草葉2099-2	☎(0985)63-1213
熊本	熊本市健軍本町12-3	☎(096)367-6067
天草	天草市港町18-11	☎(0969)22-3125
鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33	☎(099)250-5657
大島	奄美市名瀬朝仁町11-2	☎(0997)53-5101

沖縄地区

窓口	所在地	電話番号
沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0608

さくいん

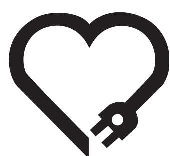
—このマークがある場合は—

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報



このシンボルマークは EU 域内でのみ有効です。
製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

愛情点検 長年ご使用のホームシアターオーディオシステムの点検を！



こんな症状はありませんか	● 煙が出たり、異常なにおいや音がする ● 音が出ないことがある ● 正常に動作しないことがある ● 商品に破損した部分がある ● その他の異常や故障がある



このような症状の時は使用を中止し、故障や事故の防止のために、必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

販売店名	☎（　　）　–	品番	SC-HTR10
お客様ご相談窓口	☎（　　）　–	お買い上げ日	年　月　日

パナソニック株式会社　AVC ネットワークス社　ネットワーク事業グループ

〒 571-8504 大阪府門真市松生町 1 番 15 号

RQT9238-MS
H0608TY3088